天上天下唯我独尊

やがて春が来るだろうか。
春はすべての生命の象徴のように。
希望までその中に含んで。
人は欲をなくしては生きてゆけないらしい。
しかし欲は――すべてとは言わないが――
その後にむなしさを残す。
しかし春にはちがいあるまい。
五体が、心が、動こうとする。これも欲だ

だが、かまっちゃいられない。
さあ動け。心の欲するままに。
後にむなしくないように。
他人ではなく自分のことだ。
そう誰でもなく自分のことなのだから、私は。

雄之

「CONTENTS」

・自治会……三頁
・MAP……五頁
〈特別企画〉
・Specialist in Otemae……七頁
・Staff in Otemae……四一頁
・しいはく……四四頁
・行事紹介……四九頁
・クラブ紹介……五一頁
・編集後記……五五頁
・おくづけ……五六頁

自治会は貴方のすぐ側に

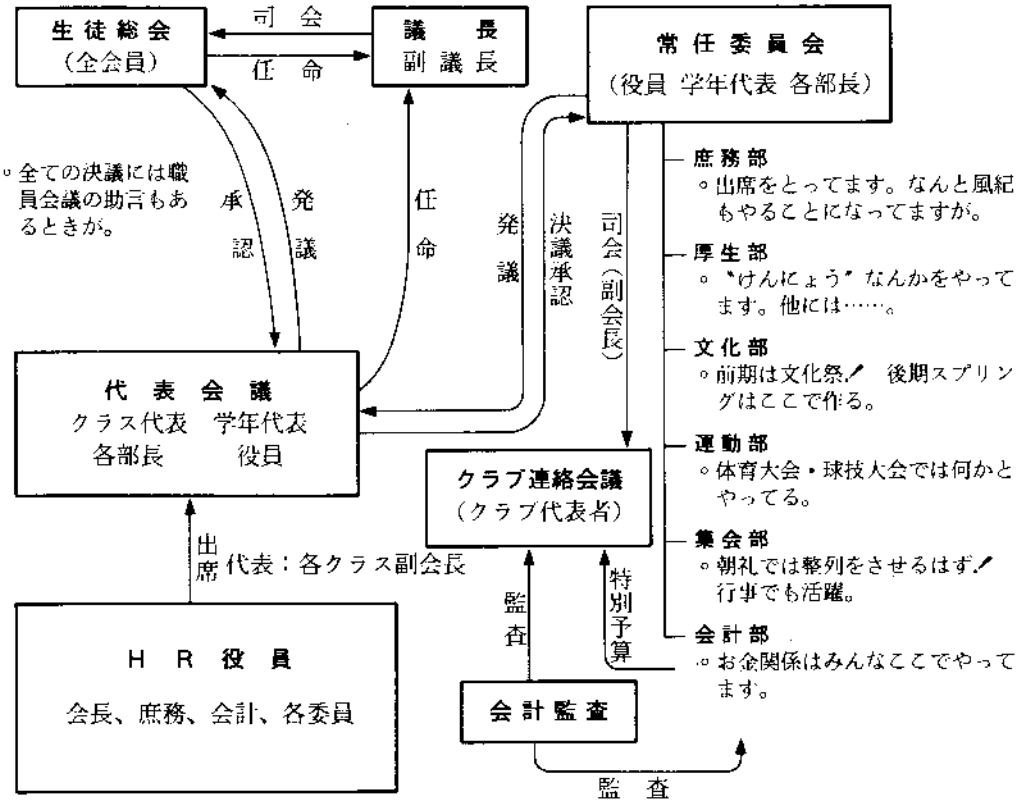
一年九組　真樹

自治会って何だか知っていますか？生徒会じゃなくて自治会です。よりよい学校生活を全会員に送ってもらうことを目的として、結成されている組織の名称です。と言っても新入生の皆さんには多分わかりませんね。その上に、二、三年の人達でも一部を除けば、あまり知られていないと思いますので、自治会というものの紹介をしてみようと思います。

まず始めに組織構成ですがこれは図を参照して下さい。

次に、自治会の一年間を見てみたいと思います。前期自治会は四月の選挙を以って発足し、すぐに文化祭に追われる様に動き出し、慌ただしく五月は走り去り六月も後片付け等ですぐに終わり、やっと落ちついた頃には夏休みとなります。そして休みが明けるとすぐに水泳大会があり、この準備に役員は振り回されます。その次には体育大会があり、それも終わって一息つくまもなく、後期自治会が十月に発足します。それから十一月に入るとにわかに忙しくなって文化系クラブ発表会があります。その後は球技大会、休みをはさんでマラソン大会等があり、節目の一つである予餞会。それが終わればもう大方の行事は終わっていまして、それと同時に自治会の一年も終わっているのです。

自治会組織図



○それぞれの名称などは生徒手帳自治会会則を見てね。

○主な組織のみ記入しましたのでこれで全てではありませんよ！

スプリング27　特別企画

SPECIALIST IN OTEMAE

CONTENTS

PART Ⅰ　スペシャリスト　本編
PART Ⅱ　特別番外編!!
PART Ⅲ　自由編
PART Ⅳ　創作編

OPENING ADDRESS FOR READER

Specialistとは……　僕たちは与えられた定義や解釈を捨て、僕たちの内側にSpecialistを捜したかった。それは権威や自慢や自己満足のむこう側につきぬけてゆくことを意味する。僕たち個々がまさに〈個〉であることにおいて、すでにSpecialistであるはずだ、と思った。

様々な話が聞けた。僕たちの中で興味も関心も見方や聞き方も各々に異なる、しかし異なるが故になお深く通じるものが僕たちの心をとらえて放さなかった。

僕たちの中に、深く埋っている〈何か〉の種、がSpringした。

なお、この企画には先生方も日頃の御専門とはまたひと味違った文章をお寄せ下さった。

by N.M.

先程、なにかの調査で「自分の生きがいとは」という問いに対し、「趣味」と答えた人が半分以上もいたそうです。今回、この企画で私達は日頃、表にでない大手前生の趣味や知識などのほんの一部をクローズアップしてみました。みなさんの「生きがい」のアドバイスとして読んでもらえれば光栄であります。

スペシャリスト編集部門代表
どぼんかふひちのすけ筆

SPECIALIST IN O

WARNING □

誰か落語を想わざる

一年四組　娘　豆

えー毎度、さて私に三度々々の御飯を取るか落語を取るかと言われましたらそうですな、まあ躊躇せずに落語をとりまっしゃろな。そういうけったいな落語狂が、皆さんに落語の良さ、素晴らしさちゅうやつを啓蒙（或ひは煽動）しよかいなと筆を執ったわけですねん。どうぞ御辛抱なさって頂いて御付き合いの程を。

まずは、落語の歴史。これは、江戸初期、京の安楽庵策伝によって始められたと言うのが一番妥当な説であるが諸説によると最古の作り物語「竹取物語」や宇治大納言が集めたと言う「宇治拾遺物語」がその祖とも言われている。このように日本には、元来和歌も含めて言葉遊び（同音異義の言葉の洒落）の伝統が民族の中に流れている。そしてその言葉遊びの延長として落語があるのである。故に落語とは江戸末期の厭世、頽廃、不安感を反映した社会情勢の中で突発的に生まれただけの文化ではなく歴史の流れを長い目で見るなら「起こるべくして起こった文化」と言えるのである。また、江戸・明治・大正に渡り名人連中が、雲霞の如く輩出した。そして昭和初期、上方演芸界で一世を風靡した初代（実は二代目だが）桂春團治の時に第一次黄金期を迎えた。しかしそれも長くは続かず、〝横山エンタツ・花菱アチャコ〟を筆頭とする折からの漫才ブームそして日中戦争・太平洋戦争等により、上方落語は、凋落の道を歩まねばならぬようになった。こういう悪条件の下でも維持して行こうと五代目松鶴等の有志が落語荘なる同人組織を作り「上方はなし」と言う機関誌まで作って食い止めようと頑張った。しかし戦争によって多くの噺家が死に壊滅状態となった。そこから松鶴・春團治・米團治・円都等のベテランと、六代目松鶴・米朝・三代目春團治・小文枝等の若手の不断の努力で今の隆盛とは言わないにしても復興を迎える事が出来たのである。

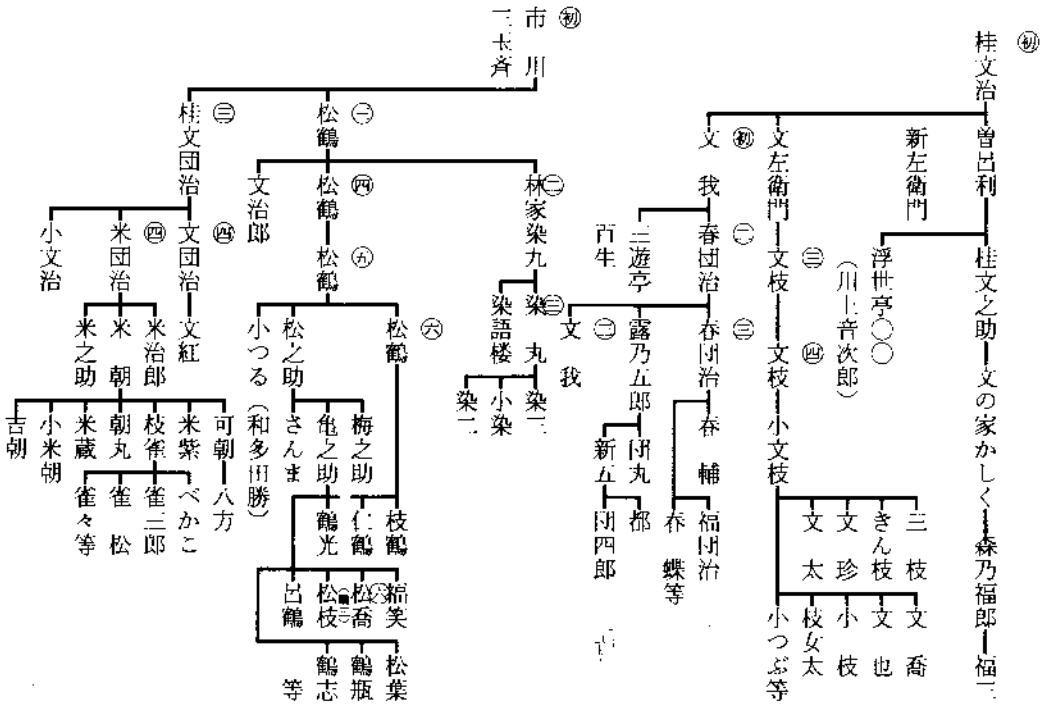
次に落語家の変遷を系図で簡略に表して見る（異説あり）主要な人物と思われるのだけ取り上げた。

（初㊀は初代、二代目の事）㊟次ページに掲示

固い話は、この位にして落語の良さは安心感、つまりその根底に流れるものが我等大衆に一脈通じていると言う安心感である。例えば、噺を聞いていると…その気持ちよう分かるわぁ」とか「おんなじや」とか言うものが滲み出てくるそれである。これは結局長屋の住人である作者が実生活の中で経験した喜怒哀楽から「ああでありたい」という種々の願望や「もしもこうならば」と言うのを想像したりする。このようなものが煮詰まって落語となったのである。だから数百年経て生活様式の全く異なる我々でも共感できるのである。（これは、結局長屋の住人と現在の中流人とが考えている事が変わっていない。つまり「人間の本質」は、どの時代でも「同じ」と言う事である。）

次に落語の中身。これは、ほとんど全ての分野にその題材を求めている。つまり落語を一通り聞く事によって一般常識から人生観に至るまであらゆるものがわかる。落語を分類すると旅噺、講釈噺、裁き噺、長屋噺、人情噺、怪談噺、芝居噺、ナンセンス噺等多数に分類される。特に、「崇徳院」、「竜田川」、「反古染」等百人一首を扱った噺は我々学生は、古典の時利用している。

又落語は、時事性も持っている。一例を上げて見ると、頃は幕末、



女子供に至るまでむやみやたらと漢語を使う事が大流行したと当時の新聞に掲載されている。兎に角、花見に行くと言う事を、桜花遊覧散策挙行と言っていたと言うぐらいである。この時流に目を付けて作られた噺が、延陽伯（江戸の垂乳根）である。この噺は、裏長屋のやもめ喜六に公卿侍の娘が嫁ぐと言う話である。ここらあたりが、幕末の動乱を感じさせる。その中の自己紹介で「わらわ父は、元京都の産にして姓は安藤、名は啓三、字を五光と申せしが、我が母三十三歳のおり或夜丹頂を夢見、わらわをはらみしが故に、たらちねの胎内より出しころは、鶴女、鶴女と申せしがそれは幼名、成長の後、之を改め延陽伯と申すなり」と少し書きすぎたが、こういう具合に時事性も持ち合わしているのである。

このように落語は、様々な側面を持っているのである。

とまあ何やようわからん事を、ドカチャカと並べ立てまして皆さんの中には、頭が変になったとおっしゃる方も居られると思います。もしそうならば、えらいどうもすんませんでした。

それで結局お前は何が言いたいねんと言われましたら皆さんに「もっと落語を聴いて頂きたい」と言う事に尽きるわけですねん。なんせ昨今は、欧米万能主義でして欧風的なことをしますと言うと、即国際人で日本的な事をしたら歴史の逆戻りとか申しまして奇人扱いになるという妙な偏見が巷に蔓延って居りまして、落語だけでなく結構な自国の文化が、だんだん資料的なものになって行こうとしてまっしゃろ、ほんまに淋しい事ですしえらい御時世になってしまいましたなあ。

えらいころころ話が変って悪うおますが、大阪人は、俗に言う、「いっちょかみ」やそうですやろ。何でも一通りは、やってみるのが大阪人のバイタリティ言うやつですやん。

せやさかい、一度で結構ですんで落語を聞いてやって下さい。そこに何かしらん引き附けられるものがあると思いますねん。それは今のH本人に欠けているものやないかと思います。

長い間、訳のわからん話を辛抱して頂き有難う御座居ました。私は、これで筆をおきますが、また大手前寄席で、会える事を楽しみにしております。

それでは、お後がよろしいようで。

コンピューターと私たちとの関係

P・C・C部長　太田　尚稔

ここ二・三年の間にコンピューター社会が急激に拡がり、また、コンピューターの普及が著しくなってきました。コンピューターといっても上は大型〔32bitなど〕のコンピューターを、下はMSX・ファミコンみたいなものまで多種多彩です。（私たちが普通目にするのは、8bit〔ex. DC−8801,FM−7シリーズ〕のコンピューターやカートリッジ式のものです。事務等で使われているのは、16bit〔ex. DC−9801シリーズ〕です。32bit以上になると企業の運営などに使われる中枢的なものです。）

私たちの中でコンピューターと聞いてコンプレックス（劣等感）をもつ人は、少なくないのが現状だと思います。これは、たぶん私たちが、コンピューターについて何の知識もなしに突然それに触れざるを得なかったからでしょう。特に複雑と思えるコンピューター言語のせいではないでしょうか。けれども、それ〔B.A.S.I.C−簡易言語〕も意味さえ知っていれば単なる記号として見えるようになるでしょう。その意味がわかったならコンピューターに対しての全ての悩みはなくなるでしょう。（但し、アセンブリ語〔機械語〕は、特別なものなので理解できない場合もあります。）

悩みは消えたにしてもコンピューターをうまく使っていくには、失敗を恐れないことです。たとえ失敗をしても、その時々でその失敗を確かめ（原因解明）、記憶の中に残しておくことが大事です。このようにしてコンピューターに慣れてくると、それに楽しみや親しみを感じてくるでしょう。（初めてプログラムを組むことができた時のうれしさは格別なものです。）

最後に、コンピューターは、命令者に対しては服従的であり（たまには〝ERROR〟と反発するが）、それ自身たいへんデリケートなのであまり無茶なキー操作はひかえるようにしたいものです。

グスターフ・マーラー小論

2年3組　日の丸反対

我々はいつの時代でも「死」に関して不真面目ではいられない。あらゆる時代に於いて死は人間の永遠のテーマであった。自分は死など怖れないのだなどと言う人間はほんの一握りか、単なる「ええかっこしい」であろう。我々日本人は死のイメージでは「散り際のよさ」を重視してきたのであろう。「久方の　光のどけき……」や武士の切腹に神風特攻隊などである。そしてこれと相俟って栄華を極

めた者の死は一未練がましい」だけに大変惨めだ。豊臣秀吉の「秀頼を、秀頼をたのむのう」などその究極だ。ここで思うと、死があるからこそ「生」がまさしく生きるのであろう。もし色が赤しかなければ誰が夕焼けの美しさを知るだろうか。また世間では「生きることは最も苦しく最も楽しい」とよく言っているが、これは「最も楽しい」より「最も美しい」とする方が私は納得できる。実際、人間が悩むことは、本当に美しいことではないか。一個の人間が現在の状況を克服しようと努力する、この過程は本当に美しいはずだし、この過程が「幸福」だと思うし、それの連続が「生きる」ことのはずだ。

生と死を必ず体験する我々人間にとっての心の拠所に信仰がある。われ未だ生を知らず、いずくんぞ死を知らん、と云う孔子の言葉のように死後を考えない宗教を現世宗教と云うそうだ。私は宗教など信じたいとも思わないし、神様が存在するとはどうも考えられない。だが無意識のうちにそういう物を信じているのも確かだ。合格祈願のお護りを買ったこともあるし、寺や神社にバカげたさい銭を投げ込みもした。少し外れると最近、アウシュヴィッツ強制収容所の生き残り証人シマンスキー氏の講演を聴いた。氏はカトリック信者であるが、その講演で『信じることが心の支え』と言っておられた。やはり信仰は単なる「しょーもない」ことと考えているだけでは済まされないようだ。

人間の生きる場に社会があるが、これは矛盾の塊なのだと思う。そんなことは毎朝来る新聞を読めば一目瞭然だし、周知の事実だ。少し身近な物で考えると年賀状などは格好の例だ。これの本当の楽しみは親しい友人や縁者、思いがけぬ旧友などに限られる。やたらと体裁ぶって大量にバラまいて喜ぶのは郵便屋だけだ。また世の多くの年賀状は印刷年賀だ。この類はせっかく頂いてもまことに味気ない。またまた喜ぶのは印刷屋だけだ。さらにヒドイのになると「オレはあいつにやったのに、あいつはオレにくれない。」なんてうっかり恨みでも買うかもしれない。私は人間がセコく出来ていてつまらぬ一例を挙げたが、社会に於けるつきあいのツラさには多くの人が泣かされてきたであろう。そして最大の矛盾は戦争と差別だ。このどちらかでも望む人間など本来一人もいないはずだが、なくならないのは現在のとおりだ。とにかく社会なんて時の権力者の都合のいいように造られているのだから権力者はこれらを望んでいるのだろう。こうなると出世などしたくないものだ。そしてこの社会に生きることの危機、軋轢を音楽に初めて反映した作曲家がグスタフ・マーラーであるとジュゼッペ・シノーポリ（注1）は語る。

グスタフ・マーラー、彼は19世紀末より今世紀初頭に活躍した指揮者、作曲家である。ここでこのマーラーに焦点を当ててみたい。マーラーを「矛盾の人」と呼んだのはレナード・バーンスタイン（注2）である。ユダヤ人でキリスト教徒、確信者で懐疑論者、絶妙とけばけばしさ、洗練と生硬、本質的で装飾的、壮大で自滅的等このバーンスタインが挙げた点から考えるとこの矛盾した社会を構成する我々矛盾した人間の典型中の典型のようだ。彼は自らの青春を謳歌した第一交響曲での主人公（無論マーラー自身）を続く第二交響曲の中で一旦埋葬し再び復活させている。この曲の最後の合唱部分で彼は「おお死　すべてを征服するもの」と叫んでいる。そして第四交響曲では「天国の生活」を描き、第五交響曲では大変ペシミスティックな世界を描く。またそれはこの曲の有名なアダー

ジェット楽章に於いて一つの頂点を形成する。

彼が愛読した李白、王維らの詩による一大傑作「大地の歌」でも終楽章は「告別」であり、続く最後の第九交響曲ではやがて来る自らの死を静かに描いている。ここに見られるように彼の創作、思想に於いては常に死があった。だから一見どんなに華やかに見えようと根底には死がつきまとっている。現世宗教であるユダヤ教を本来信仰するはずの彼がキリスト教徒である理由も解けるような気がする。また彼はその特異な人間性の為に周りの人間のほとんどを敵にまわしてきた。彼の社会に対する客観性の根はここにあるのかも知れない。

最後に私のマーラー観としては、人間のあらゆる感情――怒り、叫び、歓び、悲しみ、嘆き――を最も豊かに表現した作曲家、ということができる。つまりどの曲、どのフレーズを採っても感情がそれこそむき出しとなって聴く者を圧倒するのだ。またその感情は非常に複雑に交錯し合っている。よって彼の本質はあまりの饒舌さゆえに見失うかも知れない。「限りなく不透明で真実が見えないこの現代社会に生を送る我々」にとって、マーラーに向き合うことは、真実をつかむ過程の鍵となるのではないか。

注1　イタリア生まれの指揮者・作曲家。

注2　アメリカ生まれの指揮者・作曲家。

君もこれを読めば旅のプロだ

3年7組　宇宙企画

君だけにそっと教えよう、題して「how to travel」。

①切符を買う時

まず、お金がいるので、がまんしてためる。

②旅出つ前

ハンケチ、歯ブラシ、日帰りならおやつも、なおティッシュは多めに。ラジカセ類は持っていかない方が良い。なぜなら盗難に遇っては困る。下着は全行程日数÷3プラスα着がbetter.

③旅立つ当日

「起つ鳥あとを濁さず。」家族に見られたらヤバいような雑誌、写真は処分するか親しい友人に回そう。

④列車に乗る時

中輪の上より車両中ほどの方が揺れないのは常識。始発駅からならかまわず、真中に座ろう！

⑤列車に乗ってから

まず網棚を見よう、スポーツ新聞の一部や一部は確実。

車掌と目を合わせないのが得策。下手に話しかけられると困るのは不正乗中をしているお前だ。

⑥途中の駅で

制約のない旅なら「駅舎がきれいだ」「長時間乗車に飽きた」と思ったら、迷わず途中下車しよう。そして正面から駅舎を眺めよう。

そして親しい人に手紙を出そう。名所からよりも、こんな所からの便りのほうが旅情が深まっていいだろう。

ところで投函する時には、くれぐれも「白ポスト」には…。

⑦再び列車に乗る

周りを良く見て座ろう。旅慣れたような人のそばには寄らないこと。自慢話に耐えうる人なら別だけどね。

⑧駅弁を買う

何と言っても楽しみなのはこれ、有名な駅弁は殺到するのでくれぐれも停車時間には注意を！

（横川駅の「峠の釜めし」には関東弁の奴らが群がっている）

⑨—Ⓐ旅館に泊って夜を明かす時

旅館に着いてまずひねるのが水道のコックとテレビの2チャンネル。風呂に入って1日の旅でたまった疲れを一気に放出しよう。

⑨—Ⓑ夜行列車で夜を明かす時

盗難にはくれぐれも注意！夜行列車専門のスリがいる。車内のハンガーは使うもんじゃない。—被害者談。

⑩目的地に着いて

まず家族に電話して安否の報告をしよう。さあこれからは君の自由だ。再三うるさく言ってきた事だが、はめをはずさないように、重々承知しておくように。

くれぐれも失敗しないために鉄道研究部からのアドバイス

車中泊を続けると、翌朝乗り越したり、終点で車庫まで行ったりして公安官のお世話になる。いやですねえ。

深夜映画で夜を明かそうと考えたり、パークホテル（野営のこと）ステーションホテル（駅で野営）をもくろむのは、相当覚悟をしていないと無理。

これだけの知識があれば君も今日からtouristだ！

音盤（レコード）収集道楽のすすめ

2年11組　どぼんかふひちのすけ

1. 音盤とは—音盤収集を語る前に—

音盤収集を語る前に音盤とは何かを話しておこう。音盤とは今から百年前にエジソンが発明した、ろう管録音機が元になっている、音を記録したビニール盤である。今ではＣＤ（コンパクトディスク）が新世代の音盤として大量に製造、発売されている。具体的には別図を参照して欲しい。それでは音盤の細部を見ていく事にしよう。

☆音盤の部分名称

会社・音盤番号→音盤の氏名と言える。店で音盤を注文する時に使う大切な番号。音盤目録はこの番号を載せている。

レーベル→音盤の登録商標みたいな物で会社ごとに違う。また同じ会社の中でも音盤の特徴ごとに違うレーベルを使う事が多い。たとえば別図の例1はメロディアというレーベルである。このレーベルはソ連の唯一の国営企業メロディアの音楽の商標でロシア音楽中心に発売されている。例2はヴェルゴというレーベルで現在日本では発売されていない西独ヴェルゴ社の現代音楽中心のシリーズの商標である。例3は古楽、バロック音楽中心のレーベルである。レーベルの数は非常に多く、それぞれ個性豊かな音盤がそろっている。

定価→不思議な事にジャケットに載っていない場合が多い。付属のオビに必ず載っている。一般にＬＰは二千八百円と思われがちだが、実際には千三百円～三千八百円（一枚）と幅は広い。また定価は音盤番号でも表されている。（別図の音盤はＶ—Ｃ　５　２０である。ビクターはＶＩＣを千五百円の価格帯として設定している）

原盤→音盤やジャケットの隅に小さく載っている、その音盤番号とはまた違う番号が原盤番号と呼ばれるものである。この番号がわかればもしこの音盤が廃盤になったとしても外国で手に入れることができる。原盤とは音盤会社自身で録音して制作した音盤である。

日本の企業はクラッシック音楽はあまり自身で録音せずに外国の会社と契約して外国の原盤をプレスする形をとっている。したがってポピュラー系統の音楽で日本の音楽家の音盤には原盤番号はありえない。日本の企業は外国の録音は売れそうな物しか買わないので日本ではでていない音盤があるのである。外国の音盤を外盤、輸入盤とよんでいる。

録音データー→収録時間、録音年月日、録音場所などが載っている。これらは音盤からテープへ録音する時に役だつしその音盤がどのように録音されたかを知る事ができるのでオーディオマニアには見のがせない魅力を持つ物である。

録音状態の表示→音盤の録音方法について載っているもので大きくはモノラル・ステレオ・4チャンネルステレオなどがある。現在はステレオ方式が主流となっている。また最近デジタル録音の音盤が多い。(特にクラッシックは現在新譜一枚中八枚がデジタルである)従来の録音(アナログ方式)とは全く違う方式で、音を符号化してから16ケタの数字で記録していくものであり大変音が良い。

回転数→音盤の回転数を表す。16・33(LP)45(EP)78(SP)、回転がある。なおCDは回転数の設定の必要がないのと回転数が可変するのでこの記述はない。

プレス年→ジャケットの隅にある。この年が古いほど廃盤・製造中止になりやすい。

2. 音盤収集の魅力—音盤狂は語る—

○聞きたい音楽が好きな時に聞けること

○何度も繰り返し聞くことができる

○音の良さを追求するための道具であること

○ジャケットの美しさに見とれてしまう

○コレクターの血が燃える—他—

以上は私が日頃思っている音盤収集の魅力である。特にクラシック音楽は何回も聞かないと理解できない。その点音盤は便利である。また音盤の魅力とは音楽の絶大な魅力の上に成りたっている。だから音楽嫌いの方には音盤収集を趣味にすることはさけた方が良さそうであるが音楽好きの方にはぜひぜひおすすめしたい!!

3. 音盤収集道楽のてびき—今日からあなたも音盤狂—

その一 音盤収集を始める前に

まず、なによりも先に良い音楽を知らなければならない。それにはFM放送をおすすめしよう。FMで流れてきた音楽をテープに収める事をエアチェックという。これをする事によって自分の好みにあった音楽を見つける事ができるだろう。FM雑誌を見ると放送にかかる音盤の番号がでているので便利である。

その二 音盤買入のコツ

○買う前に必ず音盤番号、曲名、演奏者などは調べるべし

曲名だけを知って買いに行くのはクラッシックの場合危険である。次のA君と店員のやり取りを参照して欲しい。

A=あのー。ベートーヴェンの曲が欲しいんだけど…。

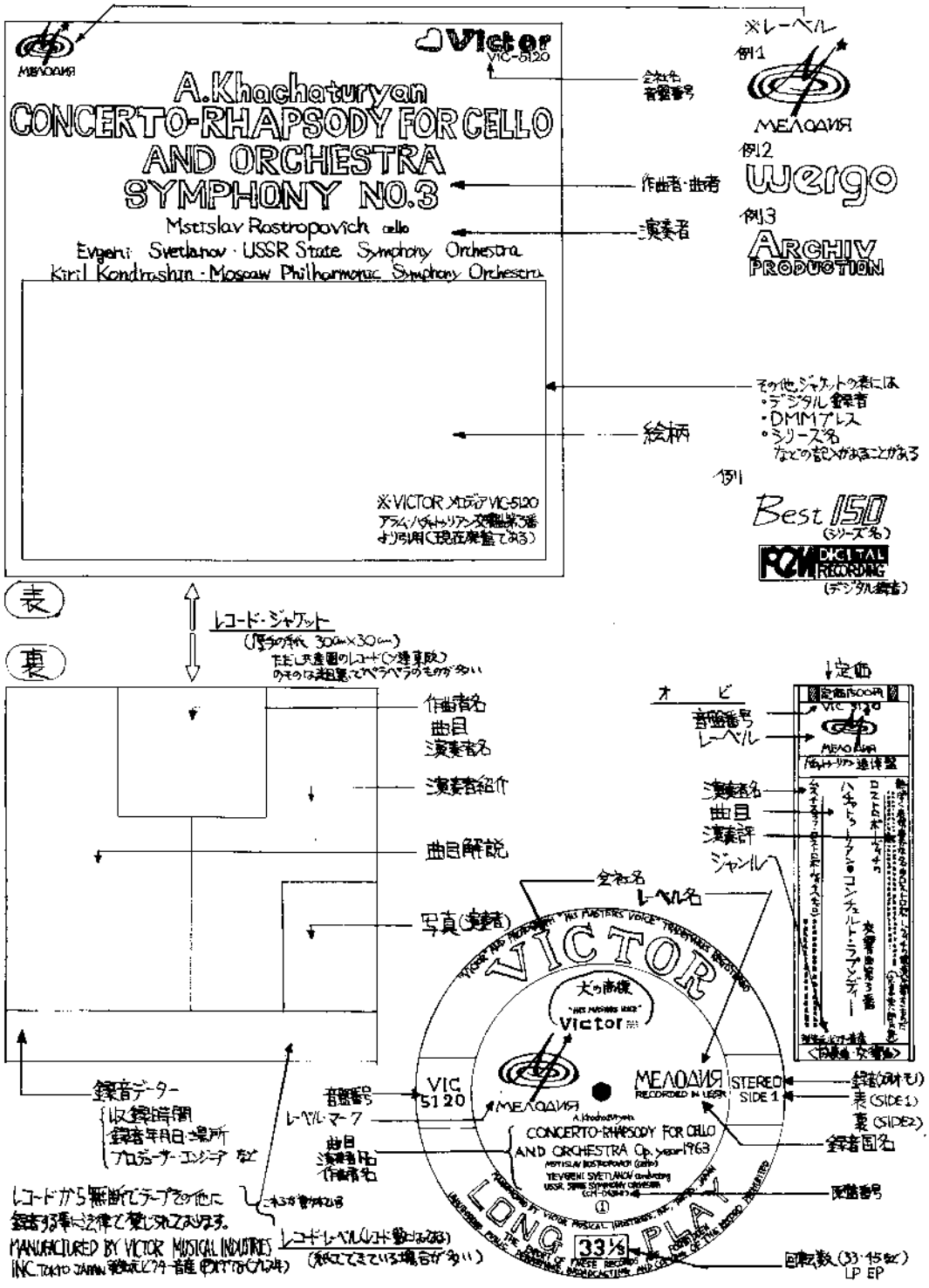
店=どんな曲ですか?

A=(知らないのであせる)えっと、えっと…。

店=有名な曲では『運命』とか『合唱』とかね他にもあるけど…

A=そう、その『運命』ってやつでいいや。(一心決める)

音盤特別図解


Victor
VIC-5120
A.Khachaturyan
CONCERTO-RHAPSODY FOR CELLO
AND ORCHESTRA
SYMPHONY NO.3
Mstislav Rostropovich cello
Evgeni Svetlanov · USSR State Symphony Orchestra
Kiril Kondrashin · Moscow Philharmonic Symphony Orchestra
※VICTOR メロディア VIC-5120
アラム・ハチャトゥリアンス交響曲第3番
より引用(現在廃盤である)
会社名
音盤番号
作曲者・曲者
演奏者
絵柄
その他ジャケットの表には
・デジタル録音
・DMMプレス
・シリーズ名
などの記入がある事がある
※レーベル
例1
例2
例3
Best 150
(シリーズ名)
DIGITAL RECORDING
(デジタル録音)
表
裏
レコード・ジャケット
(厚さの平均 30cm×30cm)
ただし表面のレコード(シェード版)のものは表紙裏でペラペラのものが多い
作曲者名
曲目
演奏者名
演奏者紹介
曲目解説
写真(演奏者)
録音データー
収録時間
録音年月日・場所
プロデューサー・エンジニア など
レコードから無断でテープその他に録音する事は法律で禁じられております。
MANUFACTURED BY VICTOR MUSICAL INDUSTRIES INC. TOKYO JAPAN
定価
オ ビ
音盤番号
レーベル
演奏者名
曲目
演奏評
ジャンル
会社名
レーベル名
VICTOR
犬の商標
Victor
VIC 5120
音盤番号
レーベルマーク
曲目
演奏者名
作曲者名
MELODIYA
STEREO
SIDE 1
録音(ステレオ)
表(SIDE 1)
裏(SIDE 2)
録音国名
CONCERTO-RHAPSODY FOR CELLO
AND ORCHESTRA Op. year 1963
YEVGENI SVETLANOV conducting
USSR STATE SYMPHONY ORCHESTRA
LONG PLAY
33⅓
回転数(33・45など)
LP EP

店＝指揮者はどなたのがよろしいですか？
A＝えっ指揮者って…（またまた知らないのであせる）
店＝そうですね。カラヤンのとかフルトヴェングラー、バーンスタイン、ショルティ、トスカニーニ、ベーム、とか他にですね…。
A＝（分からないで困惑している）そ、そのカラヤンとかいうのを…。（赤くなっていう）
店＝カラヤンの指揮ですね。どこを指揮したものですか。ベルリンフィルですか、フィルハーモニア管ですか？
A＝（全然分からなくなって）あ、あの…すいません。『運命』ていう音盤は何種類ぐらいあるんですか？
店＝さぁ、四、五十種ぐらいじゃないですか。
A＝げっ、さ、さいなら、（と、逃げる）
A＝（帰り道に）あー恐かった。音盤なんていらないやーい。
　このA君のようにならないためにも購入時には良く調べて行く事をおすすめする。またある程度、曲を知ってきたら日録を見る事もおもしろいだろう。二千円前後で音楽之友社から毎年発行されている。また音盤店は買うためだけの場所ではない。細めに通って音盤を手に取ってよく見よう。ジャケットは中の曲の出来具合を示している。すばらしいジャケットをさがせ！。何事も下調べは大切だ。
○初心者は廉価盤を買え!!
　廉価盤（安い音盤）は特に、初心者に次のようなメリットがある。
☆元来、廉価盤は初心者むけにつくられている。
☆むちゃくちゃ安い。（千五百円～千八百円ぐらい）
☆解説は易しい。
☆多少古いが名演奏の宝庫である。
○近所の小さな音盤店はダメ!!
　音盤を買うなら大きな店に行くのがいいだろう。ストックが多くそのジャンルにあった専門の店員がいるからだ。また自分の聞く音楽を中心としている専門店を捜すことをおすすめしよう。専門店なら必ず店の親父は音盤収集の超マニアのはずである。これを見のがさず相談相手になってもらうと心強い。また専門店には同志が集まる。もしかしたら好敵手（ライバル）になるかもしれない。

4.　最後に―㊙音盤激安購入法!!

その一、外盤を買う。―先程ふれた原盤番号で輸入音盤店に注文すれば時間はかかるが安く手に入る。また日本ででる新譜は一カ月前に輸入音盤店に入荷しているので安く早く入手できる。
その二、サークルに入れ。―読売ファミリーサークルに入ると指定された音盤店で一割引程度で手に入る。
その三、中古盤をあさる。―もし欲しい音盤があったときは三～七割引で手に入る。ただし品質は保障しない。
その四、海外直接購入法。―英国や米国の音盤店で海外へ通信販売を行なっている店がある。それを利用する。海外では音盤の値引き合戦がさかんであり、その音盤を中間業者を通さず個人的に輸入するのだから新品で三～五割引で買える事になる。ただし、輸入するのであるから関税が何十円かかかり間違えば密輸になってしまうので注意が必要である。安値購入法その一、四には外国の音盤日録があると便利である。輸入店で注文するとよい。

雑誌編集者からの提言

2年12組　コピーライターけいし

私達は現在、「Ｐｅｏｐｒｉｔ（ピープリット）という雑誌を発行している。でもそこには、「ローマは一日にして成らず」という諺のように、様々な人間模様があったのである。

時は私が中学生だった頃である。友人といえば、「シミュレーションゲーム」なるものや、パソコン・アニメ・・・その他色々な趣味をもった人が大勢いたのである。そこで、その趣味の楽しさを多くの人に広げたいという友人の意志と私のマスコミ関係に対する好奇心とが一つになって、言わば、「回し読み」の雑誌が誕生したのであった。創刊号は30ページほどであった。そこは多くの人たちへの自分たちの唯一の自己主張の場だったのである。その後、号数を重ねるにつれて、その雑誌のファンクラブといったものもでき、読者も私達の学年全体に広がった。恐らく70名ほどいたのではないだろうか。

でも、私達の活動を常に妨げるものがあった。それは「受験」であった。でも私達はけじめをつけて活動したため、中学3年の12月頃まで活動を続けることができた。この頃の雑誌を読んでみると実に受験直前ともいえる記事が掲載されていた。「お夜食クッキング」や「先生に聞いた！期末テストのポイント」というふうに、大変身近で実用的な記事を中心に載せ、大変好評であった。

このようにして過ぎた中学時代であったが、高校に入ることになり、中学時代の友人とも、もはや「回し読み」の雑誌を制作することはできなくなり、その結果、一般の雑誌のように一部一部販売する雑誌を出版することになった。幸い、その当時、私の近所でも10円コピーの店が出現してきたため、それを活用し、発行することにしたのである。記事も今までと違い、他校生からは郵送してもらうことになるなど、不便な点も多くなってくるようになった。そしてついに新たな雑誌が発行された。本当は、雑誌発行の初志から言って、お金などは取りたくないのだが、どうしても印刷代がかさんでしまうので仕方なく、申し訳なく思っている。（中学の時は優しい先生がおられて、「黙っててあげるから、最終号はタダで学校で印刷してあげよう。」と言ってくださったこともあった。）

このように雑誌発行に至るまでには多くのプロセスがあり、大変なことが多いが、楽しいこともそれに負けないほど多いのである。記事の中から自分にはないあらゆる人達の生き方を知り、学ぶことができることはもちろんであるが、私達と同じような同人誌を発行している人とも知り合うことができ、いろんな面で大変参考にもなる。大変多くの人と知り合うことができるのは、生きていく上で大きなプラスとなるのではないだろうか。

現在、若者が活字離れの世代と言われて久しい。確かに町の本屋に行くと「３ＦＥＴ」と呼ばれる写真週刊誌や少年○○○○などのコミック雑誌が店頭を飾り、活字だらけの雑誌がまずそこにあることはない。それはやはり、映像というものは誰にでも即座に理解できるという利点があるからであろう。でも弱点ももちろんあるのである。それはすぐ飽きがくることである。即座に理解できるということはすぐ飽きるということと表裏一体なのである。それに比べて活字はどうだろう。新聞などはこの限りではないが、特に、詩など

は飽きがくるものではない。むしろ、読むにつれて、だんだん味わいが深まるものである。モジという制限のなかで、コトバという制限のなかで、いかに言わんとすることを表現するか、これは大変奥が深く、興味のつきないものである。

皆さんも、一度自分というものをコトバの中に表現してみてはどうだろうか。きっと自分を今以上に理解し、見つめ直すことができるのではないだろうか。

一人の星見人の思うこと

2年9組　星野　瞳

ふと気が付けば、私は理化学研究部天文班班長というものをやっていた。なんかやけに偉そうに聞こえるが、本人はズブの素人もいいとこなのだ。星座は数える程にしか知らんわ、望遠鏡は使いこなせないわ、専門的な知識は皆無だわ……。あんた一体何でやってんの！と言われそうだが、こんな私だって、星が大好きなんだ！というわけで少し、星のことについて言いたいことを書いてみる。

星の面白さって何？と言われても一口では答えられないが、「神秘的な未知なるもの」への憧れだろうか。などと普段は考えることもなく、3等星が見えるか見えないかの大阪の空をボケーッと眺めて、「あっ夏の大三角だぁ」とか「今日は白鳥の羽までわかる！」と一人で喜んでいる。それがどうしてんってな感じだが、そこに星が輝いているのを見つけるということが、私にはとっても嬉しく楽しいのだ。暇な時はパズルをする気分で星座を探す。といっても、大阪では肉眼だけで、星図通りに星が並んでいるのが分かるわけもないので、オペラグラスか双眼鏡を使って、必死に星図をたどっていく。やっと星座の全体を捕らえた時、「へー、○○座ってこういう所にあったんだ」とまた一人で感激し、次の星座を探し始めるのだ。

星に惹かれるのは、もちろんそれだけではない。その輝きの美しさには、本当に感嘆してしまう。そんな光の粒が宇宙に散りばめられている不思議さに、小・中学生の頃はふっと訳のわからない恐れを抱く時もあった程だ。その中でも一番綺麗だと思うのは、流星だろうか。常に輝く恒星に対して、突然一筋の閃光を放って消え去る星屑―。あなたはどう思いますか？

本当に、言いたいことばかり書いてまとまりのない文章になってしまったが、少しでも星に興味をもっていただけたら。

平安朝からの音楽

2年11組　マリンバンド

大阪の町に真っ赤な太陽が沈みかかっている。窓から入ってきた冷たい風がテーブルの上に置いてあったくしゃくしゃになった手紙を部屋の端のラジオのドへ運んだ。それを追いかけ、拾おうとして手をだすと、何となしにラジオのスイッチを入れてしまった。するとスピーカーからはTHE BEATLESのYESTERDAYが流れ、目には涙が浮かぶ。このように音楽は人々に感動を与えてくれますが、これからちょっと変わった素晴らしい音楽を紹介したいと思います。それは結婚式などで耳にしたことが皆さんにもあると思う日本古来からの音楽、「雅楽（ガガク）」についてです。

「雅楽」とは中国から伝えられたものが日本独自の文化として発

展してきた音楽です。これは、古く平安時代から宮廷を中心に寺院、神社などで宗教儀礼にも取り入れられて、明治維新後は、宮内庁が保存、継承の中心になって、民間でも広く習得できるようになった音楽です。

ぼくが、このような雅楽と接するようになったのは、小学校四年の時で、父親に雅楽の先生の所へ弟といっしょに連れて行かれたのが始まりです。雅楽の稽古というのは最初から楽器を鳴らすというのではなく、まず唱歌から始めます。唱歌というのは、雅楽の曲のメロディを歌にして、足を叩いてリズムをとり、大声を出して歌いながらそれを覚えていくことです。（はっきり言って唱歌はおもしろくありません。まあ、人間は辛抱も必要です。）唱歌をしっかりして完璧に曲を覚えてからやっと楽器に触らしてもらえることになります。しかし、そうして吹くようになってもなかなかちゃんとした音を出すことはできません。息はもたないし、初めはかなり体力がいります。でも、慣れてくれば、音も簡単に出すことができるようになるし、曲も覚えて、だいたい形になってきます。そのようにして一曲演奏できるようになると、次の新しい曲の練習を始めます。雅楽にはきちんとした楽譜がないので、また唱歌をして曲を覚えてから楽器を吹くことになります。雅楽というのは本を読んだら演奏できるようなものではなく唱歌は全体に必要になり、結局、雅楽では演奏できる曲の数は少なくなりますが、曲を完璧に演奏できるようになります。

次に雅楽の演奏の方法についてですが、まず楽器について紹介したいと思います。演奏の中心となるのが、龍笛・篳篥・笙の三つの管楽器でこれらで主なメロディをつくります。これにリズムをつけるのが、羯鼓・太鼓・鉦鼓の打楽器と箏・琵琶の弦楽器です。これらが主なもので、ぼくはこのうちの篳篥を習っています。この篳篥という楽器は本体は竹でできていて、吹き口の所だけ水辺に生えているヨシという草の幹でつくられ舌といいます。残り二つの管楽器の説明をすると、まず龍笛は普段よく目にする日本風の横笛の一種で竹でできています。笙は知っている人もいると思いますが、半球状のものに細い竹が十七本差してある楽器で、内部構造は、その竹一本一本に金属製の弁があり基本的にはハーモニカと同じ様に音を出します。これらの楽器が一体となってこそ雅楽は素晴らしいのです。

次に演奏の形式としては、初め龍笛演奏者のリーダー（主管）の独奏（音取）から始まり、しばらくして他のすべての演奏者が入り、曲の最後に今度はそれぞれの楽器のリーダー一人ずつが演奏（止め）して終わるというのが普通です。曲の演奏時間は時には数十分などというときがありますがそんな場合は最後には日の前が白くなったりします。次に服装ですが正式なものとしては平安朝廷のきらびやかな格好ですが、ぼくらは、普通の服を着てしか演奏したことがありません。結婚式・御葬式などで演奏したことがありますが、いずれもほとんど学生服ででした。

今度は雅楽に踊りをつけた「舞楽」について少し紹介したいと思います。これはテレビドラマの一不良少女とよばれて一に登場しましたが、大変難しいもので長年の練習が必要です。舞楽の公演に一度行ったことがありますが、何ともいえず華やかで平安貴族の世界に引き込まれる思いがしました。

こんなぼくでも、普段はハード・ロックを聞いて、それのライブ

に行ったりもしますし、西洋の楽器もよく演奏します。ほんとうに音楽が好きで一日中音楽を聞いていますが、そのほとんど全米ヒット・チャートをにぎわす、またにぎわした音楽です。皆さんも一度雅楽を聞いてみて下さい。きっとそれの素晴らしさがわかってもらえると思います。

ラ変動詞「あり」の終止形について

英語科　永井津記夫

（スプリング編集委員より、是非、語源に関するものを書いてほしいとの依頼を受け、あれこれ迷った末、やや学問的レベルが高いものをと思い、今までまとめたものの中からこのようなタイトルのものを選びました。少し難しいかも知れませんが、最後まで読んで下さい。）

ラ変動詞「あり」は古来より、その特殊な活用と性質が注目され、江戸時代の国学者も、「あり」について、いろいろ言及している。例えば、鈴木朖は『言語四種論』の中で、「あり」が「イ」の段で言い切りになる点に着目し、「あり」を形状（アリカタ）の詞とし、形容詞と同様に考えている。

いったい、「あり」や他のラ変動詞の活用の特殊さは、単なる偶然の産物なのか、それとも何か深い理由でもあるのだろうか。私はラ変動詞の終止形が「イ」段で終ることにはそれなりの理由があると考える。

動詞の活用法の中の連用形は、動詞のアスペクト（aspect）に大いに関係する活用形であると言える。

夜が明け、鳥が鳴く。

のように、連用形は中止法に立つが、この時、「明け」は、文末の述語動詞の時制とは無関係であり、

夜が明け、鳥が鳴きけり。

と、文末の述部が過去になっても、中止法の「明け」はその影響を受けない。つまり、連用形の中止法は、時制を越えていると言える。これは英語において、現在分詞、動名詞、不定詞が時制を越えている（述語動詞の時制と一致する）のと同じである。

例えば、

Seeing me, he ran away.

（私を見、彼はにげた。）

Seeing me, he will run away.

（私を見、彼はにげるだろう。）

日本語の動詞の連用形は中止法に立ち、超時制的になるが、この更に発展した形が、連用形より造られた名詞である。「投げ」「踊り」「騒ぎ」等は、動作の「始め」「中」「終り」の三段階を区別しないという点で、アスペクトを越えており、過去の「投げる」動作にも、現在の「踊っている」状態にも、未来の「騒ぐ」であろう状況にも用いることができる点において超時制的である。即ち、動詞の連用形はアスペクトや時制を超越して、動作や行為の抽象化された一般概念を示すのだと言える。

ところで、「あり」という存在を示す動詞は、状態を表わしてお

り、瞬間的な動作や、これから起る動作を表わしているのではない。存在することは、過去・現在・未来にまたがる静止的な状態であり、その状態を表わすためには、動的なアスペクトを表わしがちな「ウ」段の終止形よりは、動的な動詞でさえ、アスペクトと時制を超越させ、静止的にしてしまう「イ」段の連用形をもってくる方が、合理的である。従って、古代の日本人は、存在を示す動詞の終止形を「ある」と言わずに、連用形と同形の「あり」で表現したのではなかろうか。

これが正しいとするなら、古代の日本人が自然を、いかに合理的に把握していたかが分る。言語は表層的には非常に複雑怪奇に見えることが多いが、その実、内面的考察を加えていくと、信じがたいほど合理的に自然をとらえ、表現している場合が多い。

結論をまとめると、ラ変動詞の終止形は、その連用形と起源を同じくするものであり、換言すれば、連用形の「終止法」と言うべき性質のものである。古代日本語の動詞がラ変動詞を除くと、終止形は、すべて「ウ」段で終ることを考え合わすと、ラ変動詞の終止形が「あり」という特別な形になるとするよりも、ラ変動詞は連用形が終止法に立ち、いわゆる終止形は欠けているのだと考える方が良いのではなかろうか。

最後に付言するが、形容詞の語幹に接尾する「ーし」の語源は、サ変動詞「す」だとの説があるが、これも、動詞の連用形が静止的アスペクトを示し、形容詞は実体の属性の中で静止固定し、変化しないものをとらえて表現するということを考え合わせる時「ーし」はサ変動詞の連用形「し」と同起源だと考えられないだろうか。

姓名判断

数学科　堀池鏡一

私には二歳半になる娘がいます。名を知未（ともみ）といいます。一年と何ケ月か前の数学の授業の時、子供の名前を付ける為、私は本を七冊読みました、と話した事がもとでスペシャリストとしてこのスプリングの原稿を書くハメになってしまいました。後悔、先に立たずであります。

私の名は鏡一、よく何と読むのでしょうか、と聞かれるのは、鏡という字をその名に持っていたからかもしれません。小さい頃は、画数が19もあるので書くのが大変でしたが、不思議とその字に引かれていきました。ある日、自分の名付けの意図を両親に問うたところ、『一心、鏡の如し』と答えてくれました。そのときは、なんとなく解ったような気がしたものですが、最近、自分の名が少々恐しくもあります。そんな訳で、名前に興味を持つようになり、時折、姓名判断の本などを紐解いていたのですが、娘の名を考える際、おさらいにと七冊の本を読んだ次第です。

さて、姓名判断には大きく分けて、字画の吉凶を占う画数判断と、母音・子音による韻判断の2つがあります。前者は更に、古流・呉流、漢流、新流といった様々なる流派に分かれますが、現在日本でよく用いられているのは、画数のみで判断する漢流（最大画数81）と、生年月日と画数で判断する古流（最大画数が60）の二つだといわれています。いろいろな本を読む中で、この81、60という数が、私を新しい世界へと誘なってくれました。少し紹介してみましょう。

陰陽（おんよう）　五行説、古代中国人の宇宙観です。これより、

四柱推命学、九星学、遁甲術、方位学、姓名判断等、東洋の様々な占いが発達してきました。天と地、昼と夜、男と女のように、万物現象を陰陽の二元に分類する陰陽論。又、万物を木火土金水の五星、五元素に分類する五行説、その中には、木は火を生じ（木生火）火は灰になって土に帰り（火生土）以下、土生金、金生水、水生木という相生説と、金属は木を伐り倒し（金剋木）木の根が土を崩す、（木剋土）という相剋説を含んでいるのですが、この二つの考え方を合体させ、天に輝く木星を木の陽、甲（きのえ）地上の樹木を木の陰、乙（きのと）以下、丙丁戊己庚辛壬癸の十干（じっかん）を考え出したのです。後に、遁甲術と呼ばれるものにより、数字が一つ減り九個となり、九星学が誕生、その九星と五行を循環させ、東南西北春夏秋冬、色などの大自然の分類を組合せる事により、一から九までの数の吉凶を判断したのです。（例えば、北は水性で、星は一白水星、六白金星より水と水、金生水より一と六はともに吉数となる）このように、九星の各々に対して一から九までの吉凶数を考えるので、全体を、81に分類して姓名判断を行う漢流が出来たのです。

60の方はといいますと、先程の五星のうち木星が約12年で天空の元の位置に戻ることから、子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の十二支という時間の分類が生まれ、それに空間の分類である十干を重ねる事により「甲子」から「癸亥」までの「六十花甲子」が出来上がったのです。満60才の還暦の話を聞いた事があるでしょう。えとは干支と書くのです。その他十二支と五行説より寅卯辰は東・春、巳午未は南・夏、申酉戌は西・秋、亥子丑は北・冬を表し、東南西北を守る神獣はそれぞれ青竜、朱雀、白虎、玄武といい、青春、朱夏、白秋、玄冬と色が決まったのです。（北原白秋は、確かここから名を取ったと記憶しているのですが……）古流の姓名判断は、生まれた年、月、日のそれぞれの干支の組合せ、60×60×60通り（その日の持っている運が宿命となる）と字画の組合せで占う方法だったのです。

私は娘の名を、オ段から始まるものにしたかったのです。なんとなく、おっとりとした娘に育ってくれそうな気がするじゃないですか。小さい頃から、アッちゃん、アッちゃんと呼ばれて育った子は、明るく活発な感じがする様に思います。……そろそろ予定の字数がオーバーしそうなので、これ以上詳しく書けないのですが、……韻判断では、何行の何段から名前が始まるかが、大きな意味を持つのです。しっかり者のイ段のヒトミさん、心優しいウ段のクミコさん、ア段とイ段の両方の性質を合わせもつエ段のセイコさん、皆赤ちゃんの時から、耳元に囁き続けられて来た名前なのです。影響力大なるは当然でしょう。

最後に、私自身、良い名前、悪い名前の区別があるとは思っておりません。しかし、それを気にされる方が多いのも又、事実かもしれません。ところが、ある流派で見てもらった悪い名前が、別の流派によれば良い名前となる事が少なくないのです。またその逆もあり得ます。名前、親が考え名付けてくれたものに、悪い名があろうはずがないではありませんか。

知末、逆に読めば未だ知らず、未知は道に通ずると、そんな想いを込めて名付けました。いつの日にか、聞かせてやろうと思います。

ドキュメント

思えばクイズに出場もんだ

レポート　近衛龍吉郎・京都特派員

〈日本テレビ・全国高校生クイズ選手権
近畿地区予選に出場して――〉　（八月下旬放映）

時は昭和六十一年八月九日、所は京都嵐山、見わたす限りの大草原。むかつくほどの混雑で、西村　斉・重松光浩・穴井洋行の三人は、クイズの開始を待っていた。「暑苦しいんじゃ、もっと離れろ。」「やかましい混んでんのじゃ。」と、衝突しているのは西村と穴井。これから三人、力を一つにしなければならないのだが、雲一つない炎天下で一時間も待たされたのでは仕方がない。

周囲を囲まれた北野の団体客の圧力に耐えていると、ワッー!!という大歓声と共に司会者福留アナウンサーが登場して来た。「燃えているかっ　!」と、いう福留さんの決まり文句と「オッー!!」と、これまた決まりの応答の後、今ここに集まっている近畿二府四県の参加者数などを発表してから第一問目。『京都には大文字、では日本に小文字焼というのがあるか?』との問いにドワッー!!というねりが起こった。

この野原でのクイズ形式は、答えが「YES」と思えばそちらへ、「NO」と思えば反対へ移動するのである。二人は散々迷った末に、高津を追って一直線に「YES」に走った。他校は本を開いているのも多かった。移動が止まり、いろいろとじらされてから答えの発表。「YES!!YES!!」「NO!!NO!!」のうねりが入り混じる中、ベニヤ製の大文字山の『大』の部分がストンと落ちて『YES』の文字が現れた。その瞬間「ウギャッー!!」という歓声と共に「YES」の群れが揺れた、飛んだ、抱き合った。三人も飛び上がってガッツ・ポーズ。西村は重松に着地の度に足を踏まれたが、そんな事はどうでも良かった。ただ「ヤッター!ヤッター!」と、叫び続けるだけだった。――とにかく一問は正解したかったので、ホッとしました。（西村）――

二問目、三問目とどんどん走った。暑い。大粒の汗があごをつたって、のどを流れた。五問目、六問目。正解群の叫びと敗者達のため息は、いつも同じだ。移動の途中、明星がサイコロを振っていた。まさかそれだけでここまで残って来たのだろうか?　七問目、八問目。迷って往復したあげく、一人「NO」と頑張った重松を引きずって「YES」へ。九問目、穴井の口が乾ききり、唇が歯にひっかかって動かせない。二人がかりで唇をおろしていると、時間切れで係員にせかされたので、思わず信愛の可愛い子の方へ行ってしまった。十問目、なおも信愛について行こうとする西村を引きずって、四条畷の生徒会チームの方へ。

十二問目、もう足がふらついている。暑さのあまりボケたのだろう。一瞬自分は今、何をしているのかわからなくなった。（のどがカラカラだ。水、水…。）と、思っていると右方向に池が見えた。三人は一目散に「YES」の青いシートへと向かった。池の水を飲もうと無駄な努力をしていると、「まず五チーム決定!」との声が聞こえた。周りの喜ぶ姿を見て「僕ら…残ってんなあ……。」と、穴井はつぶやいた。と、そのとたん体が宙に浮く感じがして、音もたてずに崩れていった。

一次予選では二府四県から各々七チームずつが残った。次の場所への移動のバスで重松が（二千二百チームの中からよく残ったもんだ。）と、耳掃除をしていると、昼食の折り詰が配られて来た。（来たな。）と、二人は各々の折り詰めを開けると、案の定『ペーパー・クイズ』が、こんにちは。――この時は完全に予測していたんですが、テレビに映る為にわざと大げさに驚いたんです。ちゃんと映っていましたか？（西村）――全百問。制限時間十五分。騒がしかったバスが一転して静寂に。

二者択一で解答欄を塗り潰すのだが、わかる問題は皆無に等しかった。ただ一問『てんとう虫を英訳すると』との問題を、野原では疲労の原因によく貢献した和英辞典が珍しく答えてくれた。他はどんどん勘で答えを『○』で囲んでいった。

問題が回収されてから西村はハッとした。「答え…塗り潰し……。」頬から血の気が引くのがわかった……。

「ここで帰るねんなあ……。」二人の間には、貧血で倒れた西村が寝ていた。あどけない寝顔だ。このまま敗者の屈辱を味わあずに、安らかに眠らせてやりたい。重松が大きくため息をついた。まるで人生を悟り尽くしたかのように……。

クイズ後のバスの中は、もう勝負が決まった様に左右にくっきりと分かれていた。左側では自信があるのか、楽しい遠足気分であらゆるチームが入り混じって騒がしくしていたのに、右側では同じ遠足でもバスに酔って袋を口に当てているように、うつ向いていた。

準決勝の保津川では、川岸に『保津川下り』の小舟が六艘あり、船頭さんが四人ずつ立っていた。その背中に残ったチームが書かれているらしい。舟が回って船頭さんの背中が見えて来た。泉陽、東淀川、樟陰…（頼む、何とか…。）そして……。

「…く

そ……。」と膝をつく――のが見えた。が、他人を慰める暇など二人には無かった。ただ肩を抱き合い、叫ぶのに精一杯だった。

「ヤッター！」と……。――絶対あかんと思ってたので、嬉しいよりも信じられなかったです。（重松）――

舟で保津川を下り、とある川原に降りた。各県別に並んで答える権利は最前列だけ。大手前は『ペーパー・クイズ』最下位の為に、大阪府の四番目。

一問目でいきなり泉陽が答えた。決勝へは各県より二チームずつであるので、大阪府は残り一チームだけだ。しかし、大手前は後二つ待たなければならない。三人は祈った。ピコン！答えるのは奈良県だった。ひとまず肩の力が抜けた。他県が答えたので一つ繰り上がった。（後一つ……。）三人は祈りまくった。手を組んだり合わせたり、神に仏にすがり付き、宗教なんかは無差別だ。ピコン！（やった他県だ。）が、ブー。誤答したので移動はその県だけだ。（樟陰、間違えろ。）もう悲愴な顔。――忘れた宿題を当てられそうな時のように、生きた心地がしなかった。（穴井）――　ピコン！（今度こそ…。）ピンポン！ピンポン！　（ようし！）と腹に力を入れて席についた。とにかく次の問題、ここで後ろに下がるともうダメだろう。他県に答えられてもおしまいだ。何としても答えなければならない。お互いの鼓動が聞こえて来た。

『問題―ゴジラの息子の名前は？』（しめたっ！）と西村がボタンを押した。自分達の札が立つのを見て（よし。）と大きく息を吸って「ミニラ！」と、怒鳴った。まさに、得意な分野が来てくれた。しかし、勝ったといってもなさけない問題を答えたものだ。

決勝は、大覚寺で行われた。まず本堂で一五分ほど写経をして、心を落ち着けてから月見台へ行った。後ろに大沢の池が見える。その奥床しさといったらもう、負けたら身投げしたくなるほどだ。そこに各県別に二列ずつ席についた。優勝は三ポイント先取で、各県一チームずつだ。上段の大手前の目前に泉陽が座っている。上からどつきたくなった。

午後五時半、ボタンに手を掛けた。一番上にのせた穴井の手が、冷や汗で滑り落ちた。震える手を苦労してのせた時、一問目が終わっていた。

しばらく大阪は双方無得点だったが、先手を取ったのは大手前だ。『江戸幕府……の法律は？』ピコン！「禁中並公家諸法度！」と重松。こちらが答えたので泉陽から一人が退場して、写経の続きをやった。――これでいける、と思いました。（西村）――

しかしすぐに追いつかれた。タッチの差で泉陽のボタンが早かった。その後、双方お手つきを一問ずつしてから、二つリードしたのは泉陽だ。――一つ目はまだ五角だから心配しなかったが、二つ目を取られた時はやばいなあ、と思いました。（西村）――

腕に力が入るのがわかった。深呼吸をしたが、息は荒い。もう後がない、後一つ取られると負けるのだ。そう思っていると、雑念が一瞬問題を消した。（しまった！）――しかし他県が答えてくれた。ホッとして頬が熱くなって来た。その後何度もボタンを押したが、今一歩で遅れてばかり。焦りが増して来たが、泉陽があまり押さないのが救いだった。

が、ついに泉陽の札が立ってしまった。（間違えろ…）と、祈ったが……。

――泉陽が答えてから正解の音が鳴るまでの時間が、凄く長く感じました。その間に、嵐山から決勝までの事が、走馬灯の様に思い出されました。（重松）――

――本当に出て良かった。準優勝の商品は無かったけれど、青春のちょっとした思い出をもらいました。（西村）――

――残念です。もっとチャートをやっていれば勝てたのに……。（穴井）――

（準優勝だ。堂々と胸を張って帰れるぞ。）そう自分に言い聞かせてバスへと向かった。真夏である。夕方といってもまだまだ暑い。もうぐっしょりと濡れたハンカチで汗をぬぐうと、快いそよ風が頬を乾かす。そこに銀のしずくが一筋流れた……。

ある夏の日、
高校生達の心が揺れた。

ＹＥＳを信じて走った。
ＮＯにすべてを賭けた。

クイズ日本一を夢見る
一万七千人余りの高校生達の
青春の一ページを飾るのは

勝ったときの笑顔であり
敗れたときの涙でもあるのだ。

―西村　斉―

私はこうして生物に目覚めた

1年5組　はりねずみ

こんにちは、私は小人数制(?)の生物部に入っています。いちおう言っておきますが、私はこんな部に入っているからといって決して生物の点が良いわけではありません。むしろ先輩に「こんな恥な一年生はいらん。」と、滝壺に放り込まれるような点を平気でとっています。…こんな暗い話題はやめて私の幼い頃を話しましょう。

私は兵庫県の郊外に住んでいました。私の通っていた幼稚園では午後からよく田んぼへ遊びに行きました。もちろんカエルを捕りにです。田んぼの近くの草原に着くと私達はそこへ突入してカエル探しを開始します。うまい男の子達はどろどろになって、どでかいのを捕まえてみんなの脚光を浴びていましたが私は下手っぴな方で質より量といった具合だったから、ついにスターにはなれませんでした。

小学校ではにわとりの飼育をしました。人を鋭い口ばしでつついてけがをさせるというにわとりを、私はつかむことができたのです。私達が勝手につくったにわとり会社で、なんと重役の座にいました。しかし三ケ月後、そのにわとりはイタチに盗まれ、結局にわとり会社は潰れました。

そんな時、いつも私は夕暮れに飛ぶコウモリにやつあたりしました。コウモリの飛んでくる前に、小石を放り投げるのです。コウモリはそれをエサと思って追いかけ、地上近くでやっと気づきます。幾度となくそれを繰り返し、コウモリをバカにして私は満足するのでした。心の優しかった(?)私はアリの巣の中の湿気を取り除いてあげようと乾燥剤を贈呈しました。アリは喜んで巣の中に運んで行きました。ダンゴムシが丸くなっているのを見ると「あっ、元に戻らないんだ。」とこじあけもしました。毛虫の毛が夏は暑いだろう、と心配しました。

大阪へ来てからは、友達と空地へミミズを掘りに行きました。3時間かけてダンボール箱に1kg位採って来て、近所の人に自慢してまわりました。そして、私は今までに、ハムスター・ジュウシマツ・どじょう・コオロギ・マイマイ・カメ・ヤドカリ・ひよこ・オタマジャクシ・モンシロチョウ・スズ虫などを飼っています。今は、ウサギとセキセイインコを飼っています。

スズメの卵さえ食べたことのある私が、恐れる虫は何だと思いますか？　それは飼った覚えもないのに家の中を歩く虫です。代表的なのはクモとゴキブリです。私はずっとゴキブリは、昆虫ではないと思っていました。黒いひげを動かしながら、私を脅しに来る物体と思っていました。そして、いつもそれを見ると私は、はしたない声をあげて逃げ惑うのです。あまりゴキブリについてごちゃごちゃ書きたくないけど、うちのおばあちゃんはこれをゴッカブリと呼んでいたそうです。ラ・クカラチャという歌があるけれど、あのクカラチャってゴキブリっていう意味なんですよ。

中身のないことばかり書いて、どうもすみませんでした。自己嫌悪でいっぱいです。では、みなさん木登りには気をつけて下さいね。イチョウの木は登りやすいけどかぶれますよ。さようなら。

ところで知っていましたか、これを読んだ人はみんな生物部に入らなくてはならなかったことを？……どうせ誰も読んでくれへんやろうな。

我的中国心（ウォディチュンクォシン）

1年1組　秋山理香

八月二十一日、私は『大阪府高等学校生徒中国派遣団』の一団員として、大阪国際空港を飛び立ちました。私の派遣団への応募動機というのは、「自分の目で中国をたしかめたい。」というものでした。出発前まで私は、中国に対して優越感を少なからずもっていましたが、各地を訪問し、たくさんの人々と出会い、少しずつこの考えが消えて行きました。

―相違点・・・日本の学生と中国の学生―

さて、あこがれの中国へ到着すると、上海国際空港には翌日訪問する市西中学の生徒が出迎えてくれました。両国生徒が一緒にバスに乗り込み、日中友好開始です。私は隣に座った人にぎこちない中国語であいさつの言葉を言った以外は、もっぱら英語で話しました。しかし、日本の生徒のほとんどが、俗に言う『教科書英語』で満足に話せませんでした。ここでやはり『英会話』は、必修科目に組み入れるべきだと思いました。私の場合、たった半年間勉強しただけの〝英会話〟が、三年間習った〝教科書英語〟より断然役に立ちました。また、市西中学生の中には流暢に日本語を話す生徒が数人いました。彼らに「どうやって日本語を学んだんですか？」と尋ねると、「私達は自分で勉強しました。」と答えが返ってきました。このやりとりからもわかるように、今、中国では外国から学ぼうとする姿勢が同じ高校生から持たれています。その一手段として外国語を学ぼうとする人が急激に増えてきているそうです。日本の学生のように〝受け身〟の姿勢との違いが、はっきり判りました。「外から自分の国を見つめると、また違った一面が見えるんだなぁ。」としみじみと思いました。

―窓から見えた中国―

中国へ来てから二日目、朝五時半に起床。眠い目をこすりながらバスに乗り込み、上海駅へ向かいました。朝の七時半だというのに道路は人と自転車、そして公共バスであふれんばかりでした。中国の道路には、信号機というものはめったに見られませんでした。それでは人々がどうやって道路を横断するかというと、バスが向かってこようと、立ち止まりません。バスの運転手がクラクションを鳴らしても、この状態は変わりません。ちらっとバスを見る程度でした。中国ではもしも交通事故が起こっても、車がだんぜん不利なんだそうです。はっきりいって〝当て損〟だと聞きました。またバスの運転手さんも、あわてて急ブレーキをかけるなんてのは、一向に気にしていない様子でした。同行したある先生がこの運転を見て「こわ～。」と一言。

そうこうしているうちに、上海駅へ着いたので降りる用意をしたところ、なんとバスはどんどん駅の中へ入って行き、私達が乗る列車の真横で止まりました。私達がバスを降りたのは、プラットホームだったのです・・・。

今回の旅では、列車の旅、バスの旅、船の旅とあった訳ですが、どれに乗っても、窓から見える景色は、〝中国の雄大さ〟を語ってくれました。たくさんの景色の中で一番気に入ったのは、〝長江〟の眺めでした。船で長江を遡ったんですが、赤茶色の水面をなでながら、すがすがしい風が私達を迎えてくれました。また私達は、すれちが

う船に向かって、「你好！」を投げかけると、気のいい船人達は、手をふってそれに答えてくれました。この長江の中に、私は中国の歴史や文化を理解する一つの鍵を見つけたような気がしました。

―率直な意見は○それとも×？―

派遣団員の一人N君は、文芸交流（書道や音楽など芸術や文化を通じての交流活動）では茶道の部門に入っていました。（彼自身、茶道は習った事がなかった。）予定通り進んでいる中、お茶を飲んだある生徒がN君に、「何故三回茶碗を回すんですか？」という問いに彼は知らなかったので、「知りません。」と答えました。するとその生徒に「あなたH本人なのに知らないんですか。」と、さらりと言われたそうです。交流後N君より、この話を数人で聞かされた時、同じく派遣団員の一人が「中国人てきついなぁ。」と言ったのを聞いて私は思わず考えこんでしまいました。

またこれとよく似た事が南京の高校生との交流の中でも見られました。ある英語が上手に話せる中国の生徒が、ある日本の生徒に、「何年英語を習っているんですか。」と尋ねたので、この派遣団員は「五年です。」と答えると、南京の生徒は「あなた五年も習ってて話せないんですか。」と返ってきたそうです。この二つのやりとりは、まさに日本人と中国人の性格を見事に表していると思いました。もちろん個人差は考慮する上で、やはりH本人の〝ひかえめの美徳〟に馴れていると、どうしても、〝率直〟というのは否定的になりがちです。私個人の意見を言うなれば〝率直の意見〟は結果的にプラスになるんじゃないかと思います。果たしてこれは○それとも×でしょうか？

わずか一週間の訪中で私は、何十年分もの勉強をしたと思っています。この派遣団での最大の収穫は、「素晴らしい人はどこにでもたくさんいるんだなぁ。」ということでした。一人でも多くの人に、本当の中国が見えることを願っています。

〝謝々〟

〈日本の盆踊りを披露〉　写真より模写　by　てうな

梅原 猛「隠された十字架」を読んで

1年4組　清水利香

「法隆寺は怨霊封じの寺である。」これがこの本の主題だ。私も絶対にそうだと思った。そして、聖徳太子がかわいそうでならなかった。法隆寺の救世観音の頭部には、光背が太い釘で打ち込まれているという。観音の頭に釘を打つ。こういうことが許されるのだろうか。普通、光背は仏像の本体に釘を打ちこんで取りつけたりはしない。後ろに棒をたててそれを支える。しかし、太子等身の像といわれる救世観音にそれがなされているのである。それも頭の中心に。

奈良時代の遺跡からよく人形（ひとがた）が発掘されるが、これの頭や胸の所には穴があいていたり、釘がささっていたりする。これは厭魅（えんみ）といって、人を呪い殺す手段だったという。そして、救世観音の頭部の釘。おそらく救世観音は藤原氏が太子を呪うために作ったものなのだろう。太子の一族である蘇我氏を滅ぼしたのは、間接的すぎて目立たないが、実は藤原氏である。太子の子孫虐殺の後ろにも藤原氏が糸をひいているようである。後に政治権力が完全に藤原氏の手に移ってからも、祖先のしたことを知っていた人々は藤原氏にふりかかる災害を太子の祟りだといってなんとか太子の霊を封じ込めようとした。そこで、彼らは太子の怨霊をなだめ、ごまかすためにあのような立派な寺を建てたのである。現在、語られる太子像は、藤原氏が後に、これもまた太子の怨霊をごまかすために作り上げたものだという。太子の回りは、今日人間離れした伝説でかためられてしまっている。しかし、太子は確実に人間以外の何者でもなかった。たとえ彼がどんなに徳の高い人だったとしても、子孫をあんな形で絶やされた恨みは大変なものだったろう。しかし、太子は本当に祟ったのだろうか。私は、祟りや怨霊はある程度信じるが、めったにあるものではないと思っている。とすると、太子の怨霊の有無よりはむしろ、問題はそれを思い怖れた藤原氏側にあったと考えられる。そして、法隆寺に見られる彼らの太子に対する怖れの深さこそ、彼らの祖先が権力の土台を作るのに、いったいどんなことをしたのかを雄弁に物語っている。そして、そのことは、歴史の表面には決して現われてはこない。権力を握っていたとはいえ、現代に至るまでこんなにうまく隠し続けられるとは、何とうまく細工したものだろう。しかし太子については別である。太子はおそらく歴史の大きな流れの被害者だったのだ。

もう一つ深く考えさせられたことがある。人と仏との関係についてである。人は、深い恨みをもって死ぬと、その魂は怨霊と化し、相手に祟ることができるのだろうか。人はその死後、どこへ行き、どうなるのか。仏教では人は死ぬとすぐ悟りを開き、仏になれるという。しかし、果してそうだろうか。私はその悟りを開くということの前に、何か、修業のようなことをするのではないかと思う。人であった時の心の汚れた部分を洗い落とし、悟りを開いてまた生まれ変わる。赤ん坊となり再びこの世に帰ってくる。そして、また違う人生を歩み死んでいく。つまり、赤ん坊はこの世で最も仏に近い存在ではないか。人は生きている間には、生というものにつきまとうどうしようもない汚れを持っているものである。赤ん坊は人の内で、その汚れが最も少ない存在である。仏はそれを全く持っていないのだ。また、赤ん坊は無知の極であり、仏は知の極である。両極は常に相通じているのだ。そして、おそらく人は皆、こういう段階

を経て、未来へと生き続けるのだろう。輪廻転生とはこのことだと思う。

ただの人だった太子も、死後にはそうやって悟りを開いたに違いない。そうしてそのとき、藤原氏のしたことも、現在私たちが彼らのしたことを知って彼らを憎たらしく思うように、当時、真相を知っていた人たちが、同様に思ったことも、また太子自身そう思い、真に呪ってやりたいと思ったことも、全て過去のつまらない出来事だと考えて、なんとも思わず、ただにっこり笑ったんだろう。そして、そんなとき人はやっと本当の魂の幸福、人であるときには決してわからない、味わえない幸福にひたることができるのではないだろうか。

以前から私は歴史が大好きだった。歴史の隠された部分、人物の側面などをかいまみるのが楽しみだった。この本の話は、真実かどうかわからないが、私は真実だと信じる。読んでいる間には、背中に、ビリビリと感じるものがあり、本当に怖ろしかった。太子がかわいそうで、かわいそうで泣いたこともあった。しかし、よく考えてみると、太子も死後には幸福だったのだ。死後にも崇るほど、太子を不幸だと思うのは間違いだと思う。この本に反論するのはそれくらいだ。命について、こんなに深く考えたのは、これが初めてのことだった。

放言物語または—独白—

3年　Igakat Iromudim

高校生活も終りに近づいた。その学校生活の中で多少気にかかることがある。多くの仲間達も何かしら気付いていることである。それは一体何か。

僕達は中学時代、何につけても目立つ存在であった者達が多い。成績しかり、様々な活動しかり。競争の是非はともかく、こうやってこの学校へ入った。突然、僕らは偶々にあまり目立たなくなってしまった。皆が皆というわけではないが、失った「優越感」を求めてあるものは「目立つ」ことに懸命になり、またある者は仲間を引き落しにかかる。他の人と少し違うところがあれば、「言語暴力」を受けて押し出されてしまう。こんな事はどこにでもあることだが、どこにでもある程度にこの学校にも存在していることもまた事実である。「いじめ」はますます潜在化している。人は概して人のことが気にかかる。そして知らず知らずのうちに、自分の欠点を他人に投影して、自らの劣等感を紛らしてしまう。ある意味では、各々が自分を認めてもらいたくて、わけのわからぬ争いをしているようにも思える。どうやれば各々が各々のまま認め合ってゆけるのだろう。無視したり、牽制しあたっりだけじゃなく。

集団に属しながらもしっかり「自分」をもち続けること。つい、集団にもぐり込んでしまいその中で自分を失い、ひきずり回されっぱなしになっていないだろうか。クラブやクラスや自治会が、そこで集団行動するだけの気安さ、仲間の中にいるという安心感、仲よし集団になってしまっては終りだと思う。本来その中でなすべき事を果そうとする努力の過程で、仲間意識は自然と出来上がっていくはずだ。集団生活、活動の中で、個々が制約を受けるのは当然のことである。しかし人間は各々にエゴイストでもあり、一人たりともまったく同じというわけはないはずだ。そんな個人と集団は永遠の

課題だが、個人を大切にする集団なら（クラブでも自治会でもクラスでも）外に対して開かれているはずだ。

学問はあくまで、自分を磨き、教養を深め心を豊かにするものでありたい。しかしともすると僕らは、受験のための小手先の技術を追求しがちだ。あくせくせかせか空回りしてしまう。「学ぶ」とは自発的であり、与えられたものを合理的にこなす事ではないはずだ。のんびりと、自分のペースで、落ちついて学ぶ楽しみを忘れてはならない。それはむしろ積極的な学習態度だと思う。受験がある限りそれに心が奪われ、自発性を失い勉強マシーンになってしまう危険はいつも僕らの中にあるが、学校を「予備校のための予備校」にしてはいけないと思う。本校では欠点制度がほとんど形骸化してしまっている。落第なんてほとんどない。僕らは「救済」される。「救済」されることに甘えてしまう。人間も「ほたる」だ。甘い水が好きだ。これは僕の理想だが、高校ももっとゼミナール制を採用して行ったらよいだろうにと思う。勿論必要枠は定めた上でだが。自らが選択し、学ぼうと意志し、そういう形で勉強して行けたらと思う。僕らは甘やかされ過ぎていないだろうか。学ばないもの、その意志のないものは落第する。そんな厳しい環境が必要だ。

「この本は人を怒らせるために書いたものだ。」とは、ジョナサン・スウィフトが、「ガリバー旅行記」の中で言った言葉だが、僕のこの文章も多少の反発を引き起すかも知れない。もっと強烈な言葉でもっと反発を引き起したいとも思った。本校にもすばらしいところはたくさんある。しかし「悪草は早くのびる」と言う。僕ら自身各自が自省し、解決してゆかねばならない問題ばかりだ。常に僕らが考え、新風を僕らの学校へ吹き込み続けなければならない。他人事ではないはずだ。

其は現実逃避が見せた幻と言う名の私だけの真実

3年12組　庄野清美

其は恋と綴るにはあまりに歪んでる

或昼下がり、窓辺の席に彼らは居る。其はもう彼らの日課のようであり、其の彼らを視界の端に映す私の行動も既に久しい癖である。

其時、後方の席に居る貴緒（たふお）が不意にことんと、小さな頭を机の上にのせた。窓に背を向けている亮（りょう）が預ける右肘に素直な髪が懸る。其内、亮が眼を本に落としたままゆっくりと右腕を上げると半ば両腕に埋もれた貴緒の額に綴る髪を其の長い指で耳に掻揚げ、後頭部を手櫛で梳き始めた。無意識に成される動作に心中赤面しつつ、私は何時からか胸に巣喰う或種の痛みを確かに感じていた。やがて其は亀裂になって拡がる。私は溜息をつき、視線を空に移した。

（恋…ねえ。）私は自分が彼らに対して抱く好意を其と気附くにどれ程日を要したか。

二年の組替えで私は彼らを知るのだが、以前に幾度か擦れ違っていた。背の高い姿勢のいい彼とはっとする程色の白い彼の取り合せは印象に鮮明だった。最初の内は新しい組に馴染む為の努力で彼らを見ていなかったのだがバレーボール大会以来、傾斜していた。男

子は決勝に進み、組の皆が見守る中、接戦し白熱する三セット目に亮は手首を酷く捻挫し、本人の無表情とは反比例の激痛は見た目に明らかなまま続いた。私は試合よりも、亮が捻った瞬間の貴緒の大きく見開いた瞳を脳裏に留めつつ、亮の血の気の失せた端整な横顔に魅せられていた。時の止まった夢現（ゆめうつつ）の空白を破ったのは貴緒の姿。私の全神経は視覚のみに集中し、飛んだ、と思った瞬間、首根に取り縋った貴緒の背を懐く力強い腕。次の瞬間には他の四人も加わって、揉みくしゃ。歓声が耳に戻った時初めて隣りの友人が私の手を凄い力で握り震えていた。私は上気した友人の顔に笑いかけたが頭は完全に彼らで占められていた。――〝亮〟と叫んだ、その玲瓏なる名を発音する貴緒の澄んだ声は忘れられない。

其以来、私は気附くと彼らを見ていた。見る事が楽しく何も望まなかった。志気の上がった我が組は文化祭で一気に盛り上がり、組の雰囲気は殆ど定着した。其頃には良い空気の中、各々の領域（テリトリー）を確立し、個人間の親交をより深め出し、彼らは何人かの気の合う仲間の中で、一人だけは片時も離れぬ風があった。

私は黙っててもの横にいる友人の隣りで彼らを見つめつつ充実した日々を送る中、彼らに関する見識を深めた。貴緒だけが亮と名で呼ぶとか、寡黙な頭のいい亮は周りの男子の馬鹿話に声をたてずによく笑うとか、貴緒の骨細ながらも形良く薄い筋肉の附いた少年のまの身体は着痩する均整の取れた亮の横では一層華奢だとか、貴緒の白い顔は笑うと花が咲いたように明るい、など。何よりも大事な事を、私の目が追い、見つめているのは彼らであると言う事の其の意味に気附かぬままに。

修学旅行でも私は友人達と興じつつ、彼らの楽しむ姿を追っていた。二日目の夜、床は組の男子談議で盛り上がっていた。組では男女共に亮に対して少なからず好感を抱いているらしいが彼は常に公平に過多無く優しい。確かに亮は一歩下がって静かに泰然としていて其故にこそ、笑いつつも一線を越えて彼の心の中に入りたくとも近寄り難くすらなる。皆、気附いていようか。彼は自分から話しかける事を殆ど全くせぬ漠（おぼろ）だと言う事を。貴緒は亮よりは可愛気が有り男子達のマスコット扱いでこづかれ、よく笑う。亮の唯一の隣人。彼はあまりに然るべく亮と在り、亮の冷たい容姿に華を添える。読書好きな亮の隣りで其の色の薄い硝子の瞳は亮の頁を追う長い指を映している。片時もじっとしていない風な健全な貴緒は亮の横で虚脱状態に在ると何かとても幼い。

女子には尚の事近附けやしない。

私は亮が少し解る気がした。彼は私よりずっと頭が切れ、自制心が強い。彼は知性的で双眸には理知の輝きが在るが、普段は気配を殺したように静かである。其処には紛れも無く、完璧主義の神経質さが有り、其の実彼は完全無欠の利己主義者であろう。解ると言うのは私の中に其種の根が申し分無く隠されているからだ。貴緒は純粋で、風のような印象が有る。貴緒は亮の何ものも理解せず、其により全てを分かるのかもしれない。兄、傍に居たいから居る、という感情が負担にならず亮に受け入れられ、無感情な亮の人間らしい部分に成る。あの不可欠に感じさせる自然は、精神面での愛は如何にして構築され得るのだ。彼らは各々が独立し足りぬ部分を其とは知らず補い合うのだ。彼らの両極端の個性の交わりに、中途半端な私の性質が少々嫌悪された。

季節を通して彼らへの見識を重ねるに従い私の見識は幾つかの段

階を経、学年の終りには右記のようにまで思考するに到った。其頃には私は彼らとの別れを待ち望んだ。私は彼らをとても好きな自分に気附いてはいたが、其の感情は異性感の其では無いと思いたかったのだ。私は現実逃避の傾向が強い。

クジで引いた文化委員の片割れは貴緒。二月下旬の其の日部会が終わったのは放課後遅く、教室に戻ると薄暗い部屋の窓際に在るのは姿勢良い後姿。静かにふり向く端整な顔は私に微かに微笑んだ。亮は貴緒を待っていたのだ。私は目が眩むばかりに驚愕した。貴緒の為の笑顔を間違いとは言え私が受けるなど……。

「千載の末　今も尚
　名はかんばしき　諸葛　亮」

亮は其の深みある清雅な声で朗吟した。私は我が耳を疑い、訳がわからず立ち尽した。

「十井晩翠の？」彼が私の机を指差した。

「清美さん、『三国志』好きなのか」

彼は私を名で呼び、独り言の如く語り続ける。私は彼の物言う瞳を受けつつ、軽くうなずく。私の頭は完全に思考能力を失っている。貴緒が入って来るのを機に私は彼から逃げた。

「さようなら」と彼らに語る私の声は私自身驚く程冷静だった。歩き乍ら私の思考は最高潮に達し、恐しい思いが頭をもたげる。亮は私に微笑み語りかけた。水の如く静かな男は彼なりの表現で私に対する心情の傾斜を現したのだ。亮は私の理想に極近い。而し私は現実存在する理想を無言の内に拒絶した。

三年になって亮は理系に進み、私は文系に進んだ貴緒と同じ組になった。彼は人なつっこく私に「また一緒だな」と笑いかけて来た。数少ない男子の中、貴緒は明るかったが、時折見せる呆けた顔はいつも空を見ていた。

貴緒と話す機会が増えたが、亮の話は出なかった。貴緒はあまり多くは亮の許へ通わず当然、亮の方から貴緒を訪ねる事はなかった。二学期の或日、私は彼らを見た。大阪城公園で、芝生に腰を下ろし本を読む亮の背に頭をもたせて半ば眠っているのは貴緒だ。多分、彼らはよくこうして会っているのだろう。放課後、どちらから言うとも無く歩き出すのだろう。私は胸の奥深くにあの痛みが微かにわき上がるのを感じた。今の私の頭は明確に其の痛みを分析出来る。あの亮が私に語りかけ、私に交わりを求めた日に既に分かっていた気がする。私は亮が好きだ、と言うより亮と貴緒の二人が好きなのだ、と考えていた。でもあの日、私は理解したのだ。私は私をして亮に好意を持たれることを嫌悪した。私は、歪んだ恋慕だが、出来る事なら貴緒となり、貴緒として亮の寵愛を受けたかったのだ。この痛みは嫉妬である。それは敬愛する亮が友情を示した貴緒に対してでも、私の持たぬ全てを持った可愛い貴緒が離れる亮に対してでも無い。

私は彼らの間に在るものに嫉妬したのだ。

——崇高なる精神的愛情——である。

私の目から見た彼らは微塵も病的では無く、透明感のある風に包まれていた。私のあこがれてやまぬ、肉体を逸したものだ。

今近くに見ている彼らはとても可愛いらしく感じた。この上なく仲の良い友人同志である。

私は彼らが一対である鮮明な記憶を頭の中で再現しつつ、修学旅行でのフォークダンスの亮の巧者な歩調（ステップ）と、風に流されるように、

重力を感じない貴緒の感触などを思い出し、帰途についた。

「鏡うさぎ」

3年12組　堀内　恵

その昔、とても仲の良い2羽のうさぎがおりました。2羽はいつも一緒にいたので、皆が鏡うさぎと呼び親しみました。

ある日、一方のうさぎがこう言いました。「ねえライ、もし僕が何処かへ黙って行ってしまったらどうする？」ライと呼ばれたうさぎは、きょとんとしてじっと見つめてしまいました。

「ねえ、どうする？」もう一度尋ねました。

「ロイ、何かあったの？　何処へ行くというの？　ロイ一人で行っちゃうの？」ライは訳がわからず聞き返しますが、ロイはただ優しく笑って「例えばの話だよ」と、言うだけでした。

そして数日後、突然ロイがいなくなってしまいました。ライは、探すあてもなく、二人で住んいた小さな家の中でじっと息を殺して待つ以外に方法を知りませんでした。数日前のロイの言葉がライを苦しめます。どうしてロイはあんなことを言ったんだろう……。毎日待てど暮らせど帰って来ぬ相棒を待ちわびて、ライはずんずん暗い気分に落ちてゆきます。思い出すのは、楽しい日々、ロイの笑顔、声、優しいロイ……　ライは、いつしか夢ばかり見るうさぎになっていました。遠くでロイの呼ぶ声が聞こえたような気がしました。その方を向いて見ますと、なんと彼が立っているではありませんか！

「ああロイ、懐しいロイ！　やっぱり戻って来てくれたんだね。」ライはとびつこうとして、いつしか駆け出していました。ライの目に、ロイの顔が広がっています。ふとロイの顔が曇り、

「ライ、来なくていい…　戻りなよ。僕達もっとよくわかりあえる為には、少し離れてみなきゃいけないんだよ。」

どうしてそんなことを言うの？」ライは叫びながら駆けてゆきます。

次の瞬間ライの足場はありませんでした。

「ロイ！」叫びながらずんずんと落ちてゆき、花の絨毯の上にどさっと落ち込みました。ライの声はかすれてゆきます。

「ロイ、どうして…　何故僕を置いていっちゃうの？　ひどい…」

それから数年がたち、ライも大人のうさぎになり、かわいいお嫁さんをもらい、たくさんの子供達にかこまれてつつましい中にも、楽しい暮らしをしておりました。

とうとうライが永遠の眠りにつくという際になって、ふと自分を捨てていったロイのことを思い出しました。

『もし僕が何処かへ黙って行ってしまったら』……　ロイ、今になってやっと君の優しさがわかったよ。君はあの時すでに知っていたんだね…。私の可愛い子供達、そして愛すべき妻よ。どうやら私の方が早く神に召されたようだ。後からゆっくりおいで……」

ライは、ロイとの楽しい日々、ロイと別れたこと、そして今の幸せな日々をかみしめつつ、おだやかな顔をして、神のもとへと旅立ちました。

『もし僕が何処かへ黙って行ってしまったら』……　僕達はいつも一緒だよ…ロイ。だって僕達はいつも二人一緒だったじゃないか。」

ライはあの時呑み込んでしまった言葉を、ようやく何年もかかって

引っ張り出したのでした。

現在（いま）は寝る

3年10組　**桃　花　片々草**

〈登下校編〉

朝早くからバスに乗って登校し、夕方はバスに揺られて上の空で家路に向かう。いったい私は何処の人？　特に雨の日はバスの余りのノロさの為に私の心はまさに低気圧となってしまう。

駅に於いて…普段から貧乏であるが故にスキー旅行のパンフは身なりからして貰えないと諦めてはいるが、やたら呂しそうな顔をしているとチリ紙を貰えるのが誠に嬉しい。

我等共通の登下校道である合同庁舎前の道を歩行者天国に変えて欲しいと希望する人もあろうが、民衆の力は恐しいもので、もはや官公庁の力を圧倒している。

更に加うるに、右以上に恐しいものは二車線の車道を鉄柵で無理じいに一車線にし、片側を歩道にし、その道と別の道の交差点に横断バシゴを描かせるという大手前パワーの凄さに感心してしまったのは我のみならんや。ダストじゃなくて誇りとすべし。

公共福祉のためと勇んで献血した十六歳になったばかりの者達が青白い顔をしながら歩いては呟いていた。

「また、やろう。」

「ジュース欲しいからまた行こう。」

「疲れるッ。もう絶対献血なんかしてやるか！」

「死ねるッ～。

いろいろ感ずる人もいようが、当局は一切関知しない。人は皆々様々だ。（実は小生も過去十回程吸血されたことがあるが、今では既に快感となっている。）

〈授業編〉

変わっている人（俗に変人）と呼ばれる者がやたら授業で大きな顔をする。そのためか知らぬが、そんな人は大抵顔がデカいのは奇しくも不思議なことだ。

現国の時間に寝てしまう傾向がもはや習癖となってしまっているのは私だけではなく貴人（あなた）もさることでありましょう。

ウォーウォーウォー！空襲警報発令。B29襲来！全員避難！ヒュー・ドバーン！キャー（女学生の悲鳴）！はて、いつのことだったかナ？戦争を知らない新人類…。

午後の授業。皆、必死になってついていっております。あっ、一人いました。寝ています。

日本国憲法には自由権として思想の自由・表現の自由・出版の自由があると現社Aで教わった。だから、私のこの文章も公平に扱っ

てほしいものだと思う。（どうか、ボツにしたり、出版禁止になさらないように編集委員の方々、宜しく御願い致します。）

追録

中学の時、お世話になった先生と大手前近辺で会った。その先生は教職員の賃上げ要求を求めるデモに参加していた。思わぬ再会であった。

〈先生編〉

先生という語を国語辞典でひいてみた。㈠学芸の優れている人。㈡自分が学問や芸を習う人。㈢教師。㈣教師（医師・師匠・芸術家・政治家と他にもあるが省く）などの呼称。㈤その人を軽蔑して言う言葉。

各々を分析してみよう。まず本校にいるどの先生にも当てはまるのが㈠、㈢であろう。㈡は本校にいる約五〇名の先生方に生徒は全て習う訳ではないから、生徒の観点から見ると、全部が全部該当しないように思われる。㈣はどうだろうか。ほとんどの生徒はそれぞれの先生と話す時、このような敬称を用いているらしいが、私はきちんと使っている几帳面な子である。いわゆる、いい子ぶりっ子、エガワる、マジメと悪ガキに言われる人間なのかもしれない。

それはともかく問題は㈤である。私はこのような事実を日の当たりにしたことは確か中学の時分にあったような気がする。よく不良と呼ばれていた人達は（あの頃、生真面目なあなたがたも彼らに対して恐怖の念を持ち、ある意味では彼らを侮蔑した経験があると思うが、そのような気質ではあなたがたは差別されることになるから注意しなさい。）先生達を「先公」と呼んでいた。これは「先生」がそのままの形で使われてはいないが、㈤の意味に当たるはずであろう。事実は事実、あなたがたはどう思おうか！　彼らは教師を軽蔑していたはずだ。それでなければ反抗など校内暴力などが起こり得るはずがない。やはり「先生」たる人々は㈠、㈡が必要前提条件であり、「教える」ことが不可欠なものであろうが、㈢によって生徒とのスキンシップをはかり、生徒一人一人の境遇や心理を適切に捕え、その生徒の強い補助者（サポーター）でなければならない。きっと、「先生」が教えた生徒に卒業してからも㈣と呼ばれるか、在学中に㈤と呼ばれるかは、これにかかっているに違いない。

私も将来、公官となる夢を棄て、教職の道を選ぶとすれば、以上に記したことは全くの理想理念であるが、この問題に一生、おそらく一生かけて苦しむことになるかもしれない。将来、先生になろうとする皆さんは最低一度はこのことを考えるでしょうし、先生方の中にはこのことで現在悩んでおられる方もいらっしゃるのではないでしょうか。

〈希望編〉

大手前高校に入学したときは希望を持った。ああ、俺も二人のうちに入れば東大に行けるなっ、と。そいつが今では模試の結果を前にして青ざめている。棄てたくはない野望である。

己に克つ。どんなに苦しいことか。自分には甘く、他人には厳しい面があるのが実情である。この言葉と現実とのギャップに時間はどんどん費される。そして、遂に大学入試本番を我々は迎えるので

ある。

マンガはよくないよ、あれはよくないと思いつつ、毎週百八十円ずつ消えていくのは何故だろうか。

現在は明日の羅針盤。僕の羅針盤はあまりきかないようだ。

大手前高校という船は人阪の中では航行できるが、日本の中では航行しがたいという不思議な船である。

異性の知人は十年後にはあなたの夫、または妻？　あるいは二人の関係は、えたいの知れぬ関係になっていたりするでしょうか？

いったい、希望とは何だ！　テストでいい点を取ることなのか？　臥薪嘗胆というが、苦労して勉強しても報われないということにどれほどイラ立つことか。

いったい、希望とは何だ！　勉強での苦しみを紛わせるために、楽しく過ごすことなのか。では、君は知ることができるか！　恋愛というものの苦しみを…。

いったい、希望とは何だ！　運命を悟ったようなふりをして、その虚為たるものに自分を任せることなのか！　そんなものなど希望であるはずがないではないか?!

いったい、希望とは何だ！　悩んだ後に必ずやって来るものなのか?!ならば、悩むのが苦しいから寝てやろう。それならば、誰にも文句は言えまい。

数年が経ち、大人になってしまうと、社会の雑踏の中で、人間はとかく疲れるもの。それ故に、二十歳未満の現在は寝るべし。これぞ、本章の結論なり。これぞ、若者の習。ここにもってこれを記す。

編著者記す

―終―

題名のない論説文か小説のようなもの

二年十二組　夏目　投石

私を含む万民が、今日において所謂ゆる客観性と呼ぶべきものを持たない、或は普遍性を伴生しない〝人間の知識〟を取得したとするならば、自分という個人――自分の動物的な自我に対する認識以外にはありえないはずである。例としては少々まずく抽象的ではあるが、例えば、幸福を望んで理性の法則に従うこととなる動物的な自我を私を含む万民は、無自覚的に、自分自心（身）とは別な存在を月にすることによって、とりわけはっきりと知るのである。

「つまり、人間は実際、君が今述べたような動物的な自我のうちで、自分を知るわけなんだろう。」

と、私の友人Kが割り込んできました。

―しかも、自分を知るのは、なにも人間が、空間的、時間的な存在だからというのではなくて、幸福になるために理性の法則に従わな

ければならぬ存在だからに過ぎないからである。そうだろう。こうして、人間は、動物的な自我のうちで、時間とも空間ともなんのかかわりもないものとして自分を知るのである。」（わかったか！）

Kは、お嬢さん（Kと私が下宿しているところの娘）と、カルタの件以来、気を良くしたのか、やたらと私に話しかけてきました。

私は、Kに先を越されたなと思いました。と同時に、Kが私の利害と衝突するのを恐れた私は、

「それはもっともな話だ。しかしこのような考え方もできる。人間が時間と空間のうちにしめる位置を自問するとき、まず第一に考えられることは、自分が前後に無限につながる時間のまっただなかに立っているということと、自分がどんな存在にでも仮定できる一つの球の中心であるということである。こうした時間も超越した自分自心（身）を人は実際に知っているのである。つまり、自分の自我以外には、人の本当に身についた実際の知識はないのである。それ以外のこと――こうした自我以外の外にある一切のもののことになると、人には知りようがないのであって、ただ、わずかに外側から制約の多い方法で観察し、判断がくだせるのである。」

と、私はKに対して単なる利己心の発見にも似た無味乾燥な論理を押しつけました。そして、Kと並んで足を運ばせながら彼の口から出る次の言葉を腹の中で暗に待ち受けました。

「君は確かに筋道のかなった論理の展開をしている。あたかも僕がついこの間まで積み上げてきた精進の道のように。しかし、僕はお嬢さんへの恋の道に進もうとしてしまった。」

そう言うとKはいつまでも気の毒そうな顔をしました。Kは私をたしなめるにはあまりに正直でした。あまりに単純でした。あまりに人格が善良だったのです。目のくらんだ私は、そこに敬意をはらうこと忘れて、かえってそこにつけこんだのです。

「精神的に向上心のない者はばかだ。」

私は、その言葉がKのうえにどう影響するか見つめていました。

「もうその話はやめよう。」

「やめてくれって、やめてもいいがただ口の先でやめたってしかたがあるまい。君の心でそれをやめるだけの覚悟がなければ。いったい君は平生の主張をどうするつもりなのか。」

「覚悟、覚悟なら君がするべきだ。君が今までに述べたことから、人は自分が目に見える世界の一部――空間と時間のうちにとらえられるその一部だということを、条件つきで認めることができると言った。そして、人は空間と時間のうちにとらえられる自分を、他の存在と関連させて研究しながら、自分自心（身）に関する内面の本当の知識と自分に対する外からの観察を結びつけて、自分というものの観念を、ほかのすべての人にも通じる人間一般の観念として、もつようになる訳であるとも言った。しかし、自分に関するこうした条件つきの知識によって人は他人についても、なにかしら外面的な観念は手に入れはするが、そうした人たちを本当に知るようになりはしないのだ。」

と、付け加えました。彼の調子は独り言のようでした。また夢の中の言葉のようでした。

Kと私はそれきり話を切り上げて、うちに帰りました。

「奥さん、私は今日西枕にして寝たいのですが、ベッドを動かすのを手伝ってくれませんか。Kも頼むよ。」

「では僕は今日少し仕切りの襖を開けて寝てもいいか。」

互いに納得し、作業も一段落しました。そこに、お嬢さんが、Kも私も知らない男の人を連れて帰ってきました。Kも私も様子をうかがいながら男とお嬢さんの関係を伺いました。お嬢さんの話からしますと、男はお嬢さんの婚約者らしいのです。

もう取り返しのつかないという黒い光が、私の未来を貫いて、一瞬間に私の前に横たわる全生涯をものすごく照らしました。

言うまでもなく、その晩、Kは自殺未遂で病院へ、私は殺人未遂で警察へ連れて行かれました。Kは一週間後に退院し、私は二週間後に、釈放されました。無論私たちはあの下宿には帰っていません。

その後、半年か過ぎたころ、夏目漱石と名乗る小説家が台頭しました。彼は実は投石という名をかえて、小説家漱石として復活したのでした。Kも大蔵大臣となり今日の一万円札の図柄に貢献した一人となりました。しかし、一人の生活には暗い影がつきまとっていました。

（参考資料『心』）

STUFF IN OTEMAE

—こんなに多くの教職員の方々が本校を支えているのだ—

本校の歴史が百年という節目を過ぎた今、我々がお世話になっている教職員の方々の努力を忘れることはできない。ところで、何故校長先生、教頭先生の次に理科から始まっているのでしょうか？

職員氏名（敬称略）　　私の好きな言葉・モットー

校　長　橋本　一雄○昨日の上に今日があり、今日を基にして明日がくる

教　頭　本多　康男○自分には厳しく　他人には寛容

理科

岩井　晴彦○人生楽あれば苦あり　苦あれば楽あり

井上　泰祐○昔は「闘」という字が好きでした

上総　良雄○あせるな！　いばるな！　くさるな！　ローマは一日にして成らず

堤　博史○私は信条・定見の類は持たない。よってそれらに縛られない

中川　道廣○質素倹約

岡崎　誠徳○自然はその本質において単純である

桑原　啓○「ありがとう」という感謝の言葉

山田　惇○判断は早く　行動は遅く

木山　禎策

広田　豊○「なぜ」という疑問を大切にしたい

山田　忠男○つねに心に夢をもって人生を歩もう

三木　直久、清水　亟治

家庭

高岡　京子○不易流行

笠松　園子○自然に自分らしく

蔵本　典子○われ思う　故にわれあり

宮坂　道子○心に太陽をもて、唇に歌をもて

加納　泰子、澤田美那子

保健体育

石川　満○変えることのできないものは、それを受け入れるだけの**心の落ち着き**を、変えることのできるものについてはそれを変えるだけの**勇気**を、そして変え得るものと変え得ないものを見分ける**知恵**を持ちたい。

西　仁美○夢を持って生きよう

庭野　孝夫○我・人生はチームワークなり

高塚　健治○「牛歩主義」

田中　敏○微笑みで

荒井　昭雄○NO SIDE

北原かをり○—飛翔—

宮野　恭一○虎は死してなお皮を残す

鈴木　孝彦○一期一会（人との出会いを大切に）

西沢　武則○義人なし　一人だになし

芸術

〈音楽〉竹田　紀子○𝄞　いつも　楽しく　♬～♩

河野　郁子○Wie ein Held zum Siegen

（勇者の如く　勝利へ向へ）

〈書道〉中川　壽郎○山路来て　何やらゆかし　すみれ草

森　美幸○一期一会　（芭蕉）

〈美術〉竹川　榮佑○『此の齢になっても不相変、無定見、赴くままに仕事している。特に苦心談とか楽しかりし営もなく、此の営、日々担々。』（十一代　三輪休雪）
こんな境地になりたい

国語

長谷川清一○他人の心の傷みを感じることのできる人に
河瀬もも子○君看よ　雙眼の色　語らずんば　愁ひ無きに似たり
田代　武久
岡　　省三○老者安之　朋友信之　少者懐之
大鍛治和美○人事を尽くして　天命を待つ
福島　直子○オム　マニ　ペーメ　フム
広瀬　　勝○蒐書耽溺
平野日出夫○底ひなき　淵やはさわく　田川の　浅き瀬にこそ　あだ波は立て　（古今集）
森　　一雄○たちてみゐてみみれどこぞににるべくもあらず
森　　容子○昔はものを
友田　悦生○不可能かもしれないことを　なおかつ目指す者だけが、可能なことを成就できるのです
杉野としゑ○樹下燦燦
萬田久美子○はるのひかりが　あなたにふれて

英語

川上美保子○雲の上はいつも青空
中村　容子○秧鶏は飛ばずに全路を歩いてくる
永井津記夫○初心忘れず　美的生活に溺れないこと！
長田　廣明○足ることを知る
上田　　茂○我事において後悔せず
松川　　輝○常に目標に向かって前進だ
甲田　裕子○十人十色
澤田　和哉○A true friend is the best possession
岸田　尚子○根気も天才なり
雪矢　敏明○Never put off till tomorrow what you can do today.
平　　正人○雑草のように強く
平山　幸男○時は得難くして失い難し
渡辺　りか○春風をもって人に接し、秋霜をもって自らつつしむ
長廻　歌子○真実

社会

今西　保雄○一人はみんなのために　みんなは一人のために
渡辺　光一○Be alive!
大川　敬蔵○Ars Longa Vita brevis
（学問は長く生命は短かし）
前田　晴人○無為之為
近藤　美都○一生学び続ける者でありたい
小松　素彦○真実
縣　　喜樹○学んだことの唯一の証は変化なり
齊藤　知秀○随所に主となれば立処に皆真なり
桜井　　洋○　真実であれ！
木元　則子

岸田　典久○Learning is doing（習うより慣れよ）
田中　敦夫○花となるより根となろう
木下　義広○日々の要求(Forderung des Tages)に従え！
—Max Weber

数学
伊藤　精幸○山には山、川には川の心あり
堀池　鏡一○和
河合　進輔○克己
舘田　邦明○強いて言えばそういうものを持たないこと
竹中　秀樹○逆境は人間にとって光輝ある機会
中村　良一○努力　努力　努力
岡　多賀彦○亀がいねむりすると「ウサギとカメ」の物語は成立しない
小野　昭平○虚心是吾師（われのほか　みな師）
大塚　純子○何事にも真剣に取り組みたい　きっと何かが得られると思う
山本　耕史
三宅　恵子
森下　敏明○時間と行動にけじめを
杉岡　　茂○ALL YOU NEED IS LOVE
浅見　真規○わかりきっているハズのモノをもう一度問い直そう
寿栄松富美江○うぬぼれるなかれ

技　師　田中　義光、田中　満彦、松永　和子
事　務　西野　健造○すべてを疑え！
渡辺なつみ
和久　　光
吉村　和子○Harmony
村井　慎二
乗岡　誠一○行雲流水
助手・補助員　仲尾　慶子○「真実一路」
計盛雄治郎、竹田　　裕、吉部　則義

しいはく…

集書の楽しみ

国語科　広瀬　勝

昨年大学に入った娘が夏休みに本を読んでみたいと言い出した。丁度いい機会だから私が学生時代から読み溜めてきた文庫本の整理も兼ねてその中から選ぼうということになって二人で選びにかかった。初めは、あれも面白い、これも楽しかった、ということで沢山選び出したのだが、結局日本の作家では太宰や芥川を中心に、漱石や藤村・川端等を加えて、外国の作家ではモーパッサンやヘミングウェイなど三十冊ばかりを与えた。

ところで、整理した本の中に、見返しにナンバーを振ったものが十冊余り出てきた。これは私にとっては随分懐かしい物である。というのも、高校二年の時であったか、自分はこれから一生かかってどれ程の小説を読むのだろうか、ひとつ読了した本にナンバーを振ってみようと思い立って手元にある文庫本に順に番号を付けたものであったからである。確か一番はモーパッサンの『女の一生』であったと覚えている。それから暫くの間は、ナンバーを付けて並べられた本を眺めては楽しんだものであった。ナンバー付けは何時の間にか止めてしまったが、以来、読む楽しみに眺める楽しみが付け加わり今に及んでいる。眺める楽しみ等と言えば何か読書の本筋から外れているようにも思われるが、私にとってはそれが大いに読書欲を駆り立てた事も事実であった。

そして、今では、そちらの楽しみの方が主になってしまったかの観がある。一人の作家や、一つの傾向に沿って書物を集める。集めながら読み進むのだ。このようにして集めた書物が〝私の宝物〟となっている。

さて、先頃、東京のある愛書家から原稿を求められた。〝貴方は自分の大切の書物の将来(死後の運命)をどう思っていますか〟というもので、十人余りの人達の書物への熱き思いを掌に乗るような小さな本に纏めようというものであった。出来上がって送られてきた本を読むと、面白いことに一様にその思いは同じで、自分の蔵書の運命に対しては悲観的であった。考えて見ると、それで良いのかもしれない。読書も集書も自分の生に繋がっていてこそのものであるのだから。

娘は、結局、夏休み中あまり本を読まなかったようだ。どうやら私の蔵書の運命も先が見えているように思われる。

趣味について

英語科　長田　廣明

趣味に生きる、という言い方がある。私はこの言葉が好きではない。優雅に余生を送るという達観した境地を表現するならともかく現役の人間には否定的生き方だと思うからだ。学生が趣味に明け暮れる姿には全く生産的活力が感じられないし、一人前の社会人が趣味に没頭することには、自分の務めに対して逃避的あるいは無責任な態度が見えてくるように思うからだ。大体、我々が日常生活を送る上で、しなければならない事柄に費す時間以外に自由な時間は、それほどないはずだ。目の前に仕事があれば趣味に時間を割きたく

ても、なかなか出来ないはずだ。

私は趣味に生きたくはない。しかし逆に無趣味であることも良いことだとは思わない。自分の仕事から離れて、別の世界を持つことは精神のバランスをとる上で大切なことだし、時には視野を広げ世界観を変えてくれることもあるからだ。イギリスの作家サマセット・モームに「月と六ペンス」という小説がある。普通の市民生活を送っていた主人公が、画家になることを思い立ち、家族を捨てて南国へ渡り一生をそこでくらす話で、ゴーギャンがモデルである。彼は趣味に生きたと言えば言えるが、消極的にそうしたのではなく、趣味に人生を賭け、人生を積極的に変えたのだ。そこには人生のロマンがあり、私は彼の生き方を羨ましくすら思うのだ。

趣味とは、仕事あってこそのもの、我々の単調になりがちな日常生活の一服の清涼剤であるべきものだと思う。しかし同時に、どうせ趣味を持つなら、自分の人生を一変させるような趣味にも是非出会ってみたいとも思う。大変矛盾したことかも知れないが、趣味と言える趣味を持たない私の趣味観である。皆さんは、どうだろうか。

早春雑感

書道　中川　壽郎

君聞かずや火船雄飛すること数万里なるを　宇宙広しと雖も呎尺の裏　飄挙長駆して蒼茫に入り　恍然恰も海市に遊ぶが如し　中輪涛に輾み鯤尾動き　高帆風に颺って鵬翼起る　南極沈々初月輝き氷山罘々天に連て　峙つ俯しては海面を按じ、仰いでは天を窺う形象歴々として掌上に視る無数の島嶼　翠一痕　翠裏包含す幾洲甲。

一たびは宇内の指呼に帰せん自り　竟に呑噬を恣にす碧眼の上　嗚呼人世局促何ぞ恃むに足らん　小信大疑　非是を錯る　既に功名を将って雲波に附し　誰に向ってか更に海軍の技を説かん安んぞ遠識伯氏の如きを得て天下に大令して基趾を定めん　以上が本校に蔵されていた勝海舟自筆の古詩の内容である。この詩は「安政六年、米国に航す　艦中　古詩一篇を賦し　以て悶を遣る。」とあり安政六年勝海舟が自ら咸臨丸を指揮して渡米する船上にて異国に初めて旅立つ様様な思いを海原を眺めながら雄大に詠んだものである。特に幕臣でありながら幕臣であることの利害を起えて、「日本のために自分はこれから何をなすべきか」を述べているのがすばらしい。この九年後西郷と会見し江戸無血開城へと導いたのもむべなるかなと思った。先ＨＮＨＫのテレビで梅原猛氏が「最澄」について話しておられたがその中で最澄のすばらしいところは、この世に存在するすべてのものに魂があるということ、すべてのものが愛し合い助け合って共存してゆけと教えていること、そのような内容であった。奈良末期にすでに現代我々が直面しようとしている地球破滅の危機に対する対処を示唆しているような気がした。さらに驚いたことは、そのような考え方のルーツは「貝塚」に象徴される日本の古代人の物の考え方にあるとのことであった。「貝塚」は、古代人が食べた貝殻の捨て場ではなく、文字通り「貝の塚」つまり貝やその他の動物、人間までもが一緒にそのなきがらを葬り祭った場所であったのだ。私は縄文式土器を見る時、その美しさに芸術の範疇を越えた魂のゆさぶりを感じるのだが、それはこのような考え方によって生み出されたもの、いやこのような考え方でなければ生み出すことが出来なかったのではないかと気がついた。

思いだすままに

理科　清水亟治

私の名前は、祖父永太郎の一字をもらってトシハルという。有名な国務大臣も居られたようである。

私が大手前高校に来たのは、昭和二十七年の秋、そのときの校長は佐藤先生、教頭は坪井先生であった。大手前は三校目であった。昭和十九年秋、神戸市の旧制中学を振り出しに、入営・終戦、戦後大学を卒業し、北野高校定時制に三年、数学と物理を教えていた。定時制では同年齢や一周りも二周りも年上の生徒もいたが、みなよく勉強した。

大手前に来たときは、どの学年も八クラスで、一・二年で物化をとるコースと、一・三年で物化をとるコースがあり、一年から三年まで続いて担任をした。

当時の物理教室は実験室一つだけで、先日取りこわされた北側校舎の一階西端にあり、日当たりの良い冬はほんとうに暖い教室で、実験机は木の厚さが五～六センチもある大きさは畳一枚くらいのが、縦にならんでいた。東側に化学教室があり、その間に物理準備室、暗室、化学準備室がならび、暗室は、物化の通路と兼ねていた。すぐ写真部の顧問をしたが、現像・引伸しも、いつ人が通るか判らないので苦労した。写真部で鳥取砂丘から松江に一泊の撮影旅行をしたのも思い出である。

ついで登山部の顧問をした。玄米・粗食になれていたし、身も軽かったので、軽装備で、槍穂高、立山剣、白馬を中心に、黒部発電所も建設中の中を通らせてもらい、そのとき、発電機の実物もしっかり見学させて頂き、字奈月に出たこともある。不帰の険も一度通ったが、何とも言えぬ気持ちであった。

登山部の中にワンゲル班を創り、男女山岳班、スキー班とがあり、夏は二つの合宿で二十日近くの間、家を留守にしたこともある。ワンゲル班は海岸線を走破し、村々を見聞することが目的であり、一番初めは、まだバス道路のついていないときの、丹後半島一周であった。二回目バスを少し利用して、終点に着いたが、バスは工事中の少し向うまで行って休むというので、そこまで乗せてもらったが、路線ではないので、料金は不要で、みな大喜びした。

スキー班の思い出も多い。男女それぞれチームを組んで大阪大会に出場し、参加校の少ない女子の部で、すばらしい部員がいて、大回転・距離を二年連続して優勝したことである。二年目はもう少しで総合優勝する所まで行ったが二位で終った。新潟県小千谷まで、彼女に附添って、全国高校スキー大会に行ったのは忘れ難い。学校の許可がやっと出て、開会式当日に直行したのだが、他校はみな二・三日は前から来て、ゲレンデやコースの下検分をしている。開会式の日はコースは閉鎖され、コースの下見が出来ず、翌日試合に出なくてならなかったのは、泣きたいような気持ちであった。

スキー合宿は細野を中心に、黒菱小屋でも二回した。ナイター設備もあり、大学生に負けぬ合宿を心掛けていた。

エスペラント同好会も忘れ難い。北欧諸国と文通したり、文化祭でPRもし、美しい絵ハガキを何枚も集めたもの。Mi amas vin!

授業中に時折、幽霊屋敷の話や、超心理学のESPカードを試みて来た。大学卒業した年、精神的なことに関心を持っていたので、

純神道・古神道を勉強した。一ヶ月間講習を受け神道教師の資格をもらった。その秋、父とも相談し、それまで浄土真宗であったのを遠い祖先をすべて神として祭る、日本古来の純神道に「復帰」した。霊を鎮め、霊を被い、霊を縛るなどの勉強が幽霊屋敷の物語にあるので、卒業生はよく知っている。

最後に、物理の読書感想文提出についてのべておきたい。大手前に来た年の冬より、すべての学年に、何かしらの課題を与えつづけて来た。

この根底には私が師事した桜沢如一先生のあらゆる分野にわたってアンテナを張り、正しい食事を基本にしてそこから人生に役立つものを身につけるという薫陶があった。

物理を通じて、物の見方、人生に役立つ何かを身につけるチャンスをつくるという気持ちで、物理の本を中心に、それゆえ、物理から大分離れた本・内容のものでも、心よく感想文を受け取った。受験用物理学と違う、生活物理の一面を知ってもらえたと思っている。

Everyone is happy, if not his own fault!

Mia Ootemae alta lernejo, pregu ĉiujn lernantajn sanojn kaj sukcesojn!

（私の大手前、諸君の健康と成功を祈る）

おおつごもりの夜に

数学科　小野昭平

仏さまの話しでも読みながら、新しい年を心静かに迎えようと思って、帰り途、本屋に立ち寄った。習い性とはおそろしいもので、足は自然に、数学の本が並ぶコーナーに向う。すぐ目に止った本が「怠け数学者の記」これはおもしろいと直感、買い求める。著者は小平邦彦先生、フィールズ賞、文化勲章等を受賞された世界的な数学者である。その本の中に次のような話がのっていた。

数学の研究は、ひじょうに困難な仕事であるかというと、必ずしもそうではない。ときには、何もしないのに考えるべき事柄が、つぎつぎと自然に見えて来て、わけなく研究が進展することがある。この実感は、夏目漱石の「夢十夜」の中の運慶が仁王を刻む話しによくあらわれている。運慶が、仁王の太い眉や怒れる鼻、口を手早く刻む様子は、いかにも無造作に見える。しかし、それは運慶が木の中に、仁王の姿を見、鑿と槌で掘り出しているにすぎないからである。残念ではあるが、たいていの人の目には、どの木の中にも仁王は見当らないし、掘り出すことは及びもつかない。数学も同様であって、たいていの本には定理は埋っていない。

「数学の研究」を「数学の問題を解く」におきかえて見れば、私にもなるほどと、うなずけるふしが生れてくる。問題にふれる、一瞬にすべてがわかる。何がどのようにかかわっているか、全くわからないままにすべてがわかる。白い紙の上に鉛筆を走らせ、文字や式の列に色をつけて行けばすべてが終る。こんなにおもしろく、楽しい教科が他にあるだろうか、ということになる。しかし、残念にもそううまく事が運ぶとは限らない。あれこれ考えているうちに、無駄に時が流れていく方が多い。

法華経の中に「一念信解（いちねんしんげ）」という言葉が見える。この「信解」の心を見事につかんだ人に岡潔先生がおられる。先生も亦、世界的な数学者である。失われて行く日本的なものをおしみ、芭蕉を訊ね、

道元に学び、ついに明治初期の傑僧弁栄聖者にたどりついた篤信の人である。その著「日本のこころ」の中で、良寛の書、「天上大風」を見た時の思いによせて、この信解について次のよう語られている。

私はそれを見ると直ぐわかった。とっさで、何がどうわかったのかわからないが、一切がわかってしまったのであろう。良寛の書がいわば真正の書であることを、少しも疑わないようになった。

じっと見ていると、何だかこせこせした心のもやもやが吹き払われて、心が段々ひろびろして行くような気がする。

翌朝もう一度その字を見ると、字の姿から見て、横に右から左に強い風が吹いているようである。

この初めのわかり方を信解、そして第二、第三のわかり方を情解知解といえばよい。人が芸術作品を語るさい、まず知解を詳細にのべ、少し情解に及んで終るが、実際はその逆の順に起る。しかも本当にわかるときは、常に信解に初まり、信解という現象が起ると、とっさに一切を「親しく会取する」とある。

禅の公案に「廓然無聖」というのがある。広辞苑によると、信如界は廓然として凡聖の別なきこととあるが、何ものにもとらわれずおおらかに生きよと教えているようにも思える。

何冊かの本を読み、何人かの先師にまみえぼんやりではあるが何かがわかりかけたような気がする。私もまた煩悩具足の一人、もえさかる貪りや瞋りに心安まらぬ日を過す。だが、この命はある大いなるものからの預りものという。一日一日を、いやその一時一時を大切に生きていかなくては。殊勝な思いにふけりかけた時に、夜空を鐘の音が渡り初めた。一つまた一つ丘をこえ、池を渡るこの鐘の音は一体何を語りかけているのであろう。

行事紹介

May be

四月　入学式

「ああ、自分は大手前に入れたんだ。」と改めて思う瞬間です。

オリエンテーション

新入生に、大手前を知ってもらうための設備その他諸々の紹介のことです。

クラブ紹介

運動系と文化系に分けて、二日間にかけて行われます。

前期自治会役員選挙

我校の自治会の役員を決める選挙です。

五月　創立記念日（五月一日）

ちょうど飛び石連休の中頃にあたるこの日は我校の創立記念日です。学校は休み。

中間考査

新学校初めての定期テスト。新学期早々欠点など取らぬように……

バレーボール大会

新しいクラスでの最初のクラスマッチ。このクラスマッチは学年の枠を越えてやるので、毎年、一年生はコテンパンにやられます。

六月　文化祭

他の高校では、だいたい秋にやるのですが、大手前は例外で、梅雨でうっとうしい六月に行われます。

第一部…校内いたるところで、バザー、喫茶およびクラス発表や文化系クラブとしての展示、劇、映画等々、いろいろな催しが行われます。

第二部…第一部終了後、夕方にかけて、校内グランドにてフォークダンスが行われます。しかし、これはあくまでも自由参加です。

第三部…学校近くの国民会館、学校内の講堂、金蘭会館の三つに分かれて、コーラス大会の決勝、文化系クラブの発表、映画などが催されます。（注…コーラス大会の予選は六月初旬に行われ、それに勝ち残ったクラスだけが、決勝に進出できる。）

七月　期末考査

新学期の決心、そろそろぐらついていませんか？

八月　夏休み

運動系のクラブは、この時期を利用して合宿を行います。

九月　水泳大会

夏休み開け早々、我校二五mプールにおいて盛大に行られます。その盛り上がり様は体育大会に勝るとも、劣らぬとも。

アチーブテスト

夏休みの勉強の成果が問われる実力テスト。夏休みに勉強をしておかないと、後で地獄をみます。

体育大会

大手前最大の体育行事。その盛り上がり様は異様（?）なものがあります。日頃、体育関係で満たされない諸氏にとってはうっぷんを晴らす絶好の機会でもあります。

十月　後期自治会役員選挙

中間考査

十一月　期末考査

気力で乗り切ってください。

スケート教室

期末考査後の二日間、近くのスケートリンクで行われます。自由参加で、参加するには費用（滑走券）がいります。

一月　予餞会

別名「追い出し会」と呼ばれるこの予餞会というのは、三年生を送り出すための会です。この日を過ぎると三年生はぷっつり学校に来なくなります。

二月　大阪城マラソン

毎年恒例のマラソン大会。北風が吹きすさぶ中、女子は大阪城の外濠一周、男子は外濠二周走ります。

三月　学年末考査

笑顔で進級できるよう頑張ってください。

スキー教室

学年末考査終了後、信州方面で五日間の日程で行われます。これも自由参加なのですが、かなり人気があるようです。

数学こわい

こんすけ

二学期の中頃、文系理系の選択において私は迷うことなく文系を選択した。何故なら私は数学が大の苦手だからである。大嫌い、というわけではないのだが、教科書、チャートなどをひろげるときに相当な抵抗を感じる。授業中など、「あてられたらどうしよう」といつでもビクビクしている。日頃、真面目に予習、復習さえしていれば抵抗を感じたり、ビクビクしたりする必要など全くないはずなのに、それをしないからいつまでたっても数学に対する恐怖感が消えない。よってテストもいい点数などとれるはずがなく、いつでも片方は平均点ギリギリ、もう一方は赤点スレスレというわけである。数学を得意としている友人の話によると、「数学はやっておもしろい」のだそうだ。数学の苦手な私にはとうてい理解できない考え方である。（いや私の場合数学に限らずどの教科を勉強していてもおもしろいと思ったことはほとんどないが。）しかし考えてみると「やっておもしろい!!→「やる」→「得意になる」というのはあたりまえである。「好きこそものの上手になれ」と諺にもあるぐらいなのだから。そうだ、そうだ。いったん好きになってしまえば、後は楽なんだ。好きになるためにはやるしかない。でもやろうとすると体が拒絶反応を示す。やっぱりやーめた…こんなことを繰り返している私は当分（いや下手をすると卒業するまで）赤点の恐怖から逃れられないだろう。ああ終業式がこわい……

クラブ・同好会紹介

═運動系═

剣道部

現在、部員数は二年男子12人、女子3人、一年男子3人、女子6人の合計24人のクラブです。部員は皆、はがらかで、仲が良く、楽しいクラブです。

しかし、練習は真剣そのもので、熱の入った練習をしており、女子部員も男子部員に負けじと、がんばっています。

硬式テニス部

硬式テニス部に入部したとすると、当初の頃は練習が少ししんどく感じることもありますが、練習していくにつれて上達してくるとクラブをすることが楽しくなってきます。僕達の硬式テニス部では、先輩後輩の仲が非常に良くて、練習外でも最も楽しいクラブのひとつです。

硬式野球部

新チーム結成以来、成績は今一つだが、短い練習時間の中で、個人が課題を持って取り組んでいる。投手層の厚さと打力が売りもので弱かった守備力も上がってきた。一部の関係者筋で言われる『夏の大手前』という名に恥じぬよう、夏の大会に向けて、我々は燃えている。

サッカー部

今期のチームは、特に目立つ選手はいないが、一人一人が全体をカバーしていて、チームの雰囲気を盛り上げている。対戦成績は十一月現在で五分であるが、試合内容は良いとはいえない。これからの課題は、バックスが全体として弱いので、防御力のアップをはかり、これからの試合に備えたい。

柔道部

我が柔道部は、部員約30名から成るクラブで、中には女子部員もいます。先輩は練習が始まれば厳しいけれど普段はとてもおもしろい人ばかりです。先生も技をわかりやすく教えてくださるので、初心者の方も大歓迎です。

みんなで柔道部に入ろう！

女子バスケットボール部

現在、女子バスケットボール部は、一年生、二年生合わせて約30人（うちマネージャー5人）で活動しています。夏には楽しい楽しい合宿もあって、先輩と楽しい夜を過ごすこともできます。経験・未経験関係ありません。

青春したい人はぜひぜひ入部しよう!!

女子バレーボール部

現在、部員26名（うちマネージャー5名）で活動しています。秋の部別では、二部に昇格し、一同より一層練習に励んでいます。毎日二時間足らずの練習ですが、夏休みには合宿もあり、なかなか厳しいです。しかし、ヤル気があれば楽しくクラブが出来ると思います。入部お待ちしています。

水泳部

我が部では五～九月に本校プールで泳ぎます。現在14名の選手のうち13名が初心者です。現在、部員は少ないのですが、楽しく暖かいクラブなので男女を問わず是非水泳部へ！

現在――男子9名、女子5名、マネージャー2名

マネージャー大歓迎!!

創作ダンス同好会

ダンス部、運動系同好会です。文化祭出ます。でも体育祭出ます。だから運動系です。同好会でも毎日練習します。ちゃんと府下の発表会あります。同好会だから部費ありません。でも、お金かかりません。レオタードあ

ればいいです。

∴楽しいクラブです。

卓　球　部

我が大手前高校卓球部は現在、一年生部員男子5名、女子1名という近来にない部員難に悩まされてはいますが、日・祝日を除く毎日五時すぎまで、地道に練習をしています。一月には新チーム大会が予定されているので、まず〝一勝〟を目標として頑張っていきたいです。

登　山　部

活動は年八回の登山（合宿含む）を行っています。普段は、月～土曜日の放課後、大阪城にてトレーニングをしています。見学に来てもいいよ!!

登山部の存在を知らなかった人もいるでしょうが、少しでも興味があるなら、最寄りの部員に声をかけて下さい。登山部はあなたの入部を待ち望んでいるのであった。

男子ソフトボール部

原稿未提出の為、省略させていただきます。

男子バスケットボール部

現在、男子バスケットボール部は部員31名、マネージャー5名で活動しており、体育館または大阪城公園で少ない時間をうまく使った練習・トレーニングなどを行っています。伝統ある我が部は、多くのすばらしい成績をあげており、最近では六十年度新人戦での西地区優勝があります。

男子バレーボール部

合格してニヤケているそこの君！自分に秘められた才能をバレーボールで引き出してみよう。これこそ〝青春〟じゃないか。さぁ、一緒にボールを追いかけようぜ。こんなクサイ文章を書く奴の顔が一目見たいという人は、放課後、体育館へ集合！君を待っている。

軟式テニス部

我が軟式テニス部は、部員こそ少ないけれど、とっても楽しいクラブです。活動場所はというと、大阪市中央体育館横の広いコートと、学校内の狭いコートの二面を使ってやっていますので、気軽に見に来て下さい。素敵なお姉さんと優しいお兄さんが君を待っている…。軟式庭球部をヨロシク!!

軟式野球部

軟式野球部は、現在部員44名（うちマネージャー4名）おり、運動場又は大阪城で練習しています。昨年の練習試合では、8戦して5勝2敗1分という、まずまずの成績をあげました。ここ数年間で、他に比べてチームワークがよく、ケジメのあるクラブになってきています。

ラグビー部

ラグビー部の昨年の成績は冬・春共に、ブロックBEST4に入り、秋の大会では全国レベルの大工大高校と対戦し、善戦はしたものの惜しくも敗れてしまいBEST8に終わりました。今年のチームの期待も大きく、チーム一丸となってがんばっています。ラグビー部は本格的なクラブです。

陸上競技部

我が陸上部も今では「天下の…」とは言えないまでも、年々その成績も良くなっています。ここ二～三年、短距離パートは、練習内容も充実し、「量から質へ」の傾向がみられ、昨年、女子は十一月の地区別大会で総合四位に入賞しました。一方、中長距離パートも、十一月九日の大阪府高校駅伝では、一昨年ほどの健闘はみられなかったものの、男女ともに次年への大きな望みを与えてくれました。

═文　化　系═

E・S・S

ESSとはEnglish Speaking Societyの略

で英語のクラブです。文化祭やクラブ発表会では英語で紙芝居や劇をやったりします。ふだんの活動は英会話、英文タイプ、外人ハントなどなど……三学期にはクラブ内でスピーチコンテストがあります。いっしょに英会話を勉強しましょう！

演　劇　部

演劇はただセリフを覚えるだけではダメで想像力を働かせ、時には体力も使い、役を自分の手で足で造り上げていくのです。しかし、全然難しくなく、とても楽しいものです。上演前の緊張感やスポットを浴びる時の気分はもう「最高！」の一言です。部員が少ないので、是非入部してください！

音楽部軽音班

軽音部には一年生と二年生それぞれ二つずつのバンドが在籍しています。去年から校舎改築工事が始まり、いつもライブの会場に使う金蘭会館が閉鎖されているので今年の文化祭が少し心配ですが、どこでやるにしても、いい演奏を聴いてもらえるように、メンバー一同、日々腕を磨いています。

音楽部コーラス班

こんにちは！今一番のってるクラブ――それがコーラス部。チャレンジ精神、好奇心旺盛なＹｏｕへ。是非音楽室を訪ねてみて！昨年はMusicalも手がけてみました。夏には合宿があり、コーラスには不可欠な学年を越えたチームワークも作ります。さぁ、新鮮な感動、歌の楽しさを見つけてみませんか!?

ゲーム研究同好会

俺がっ会長だっ!!我が大手前高校ゲーム研究同好会の最終到達目標と大志を抱く所は、この大手前高校内における唯一無二の、一部反感を安値で買いつつも、公認の室内遊戯の場を生徒諸君に提供せんとすることである。是非一度参加することを薦める。必ずこの高級なゲームに魅入られることであろう。

写　真　部

ハイ!!はじめまして!!写真部です。写真部というのはカメラで写すだけではありません。現像や引伸ばしも自分でできるのです。活動は他の部と違って文化祭等だけでなく、各行事を写したり、撮映会に出かけたりなどもするのです。この明るく楽しいクラブを君も訪れてみませんか!?

吹奏楽同好会

我々のモットーは「人間関係を大切に――。」御存じの通りの大所帯なので、なかなか足並がそろわないのですが、いろいろな所に頭をぶつけながらも、わりと?うまく行事をこなしています。今一番の悩みは楽器不足……。それにも負けずに活動していきますので、今まで以上の御声援をよろしくお願いします。

書　道　部

書道部なんてあるの!?なぁんて言う人もいますが、ちゃんと存在しているんですよ。活動日は週に二回、月曜と木曜です。

おしゃべりしながら楽しく、また、春夏休みには、親睦会らしきものなど…。初心者の人でも大歓迎!!ちなみに部員の半数は初心者ですので……。

生　物　部

すーっと泳ぐ小魚にしばし魂を奪われた後、ふと顔をあげるとかわいいハムスターの姿が目に入る…。ああ、安らぎの一時――なぁんてね。我が生物部では部長以下、小人数ながらアット・ホームな雰囲気で楽しく、かつ真剣に部活に取り組んでいます。だから、勉強もばっちり♡　さぁ、いらっしゃい！

地理歴史研究部

'86文化祭・'86文化系クラブ発表会では、昨年創立一〇〇周年を迎えた大手前高校にちなんでその校舎と周辺近代建築物・歴史的変遷などについて研究発表いたしました。活動は本

館3F、書道教室横の〝地歴研究室〟において。
さぁ、今こそ「スプーン一杯の勇気!?」をこの地理歴史研究部に！

鉄道研究同好会

ごく身近な近所の鉄道に関心をお持ちの方も、また地方ローカル線などの汽車旅のお好きな方も、ぜひ我が鉄研（てっけん）に入会してみませんか!?会員数の方は決して多くはありませんが、みんな鉄道好き、旅好きばかりです。旅についての御相談にも、お気軽に「鉄研」へどうぞ！

フォークギター同好会

K：こんにちは。フォークギター同好会です。
M：よろしく。
T：僕の今日の朝ごはんはステーキだったので胃がもたれて無口なんです。見て下さい。顔色悪いでしょ!?バイバイ。
S：幽霊部員のつもりだったのに、ついついのめりこんでしまいました。
――という集まりです。ははは。

P・C・C

PCCは正式名称をパーソナル・コンピューター・サークルといい、主に週二回化学講義室において活動しております。部員の数は作られてから間もないし、宣伝もしなかったので、多いとはいえませんが、みな各々、コンピューターに関心をもって集まった人達です。皆さん入部してネ!!途中入部も可!!

美術部

美術部というと、絵がうまく書けないといけないとか、中学の時美術が2だったとかいって敬遠する人が多いようですが、そんな事は全く関係ありません、ただ絵を見るのが好きというだけでも十分です。とにかく関心がある人ならだれでも大歓迎です。内容としては、油絵、水彩、立体など何でもします。いつでも美術教室に遊びに来て下さい。

文芸部

ほの暗い電灯とかたむいた天井の下で人々は集い、密会を開く。そこには、あらゆる類の人間が寄り、いろいろなものを持ち込む。何時もならば各自の仕事のみを消化している人々が団結するのは、恐怖の大王が彼らの前に立ちはだかる時である。
そう――〆切りという名の……

漫画研究同好会

しばし貴方の時間とこの紙面、漫研がお借りしとうございます。活動は週一回ほど。嬉し楽しの晴れの場は、文化祭に文化系クラブ発表会。季節ごと会誌発行もしております。老若!?男女腕に自信のある方ない方もいざやつどえや漫研に。貴方の個性を伸ばしませう。

落語研究同好会

当会は浪花で培われた笑いの極〝落語〟を純粋に研究し、年二回の寄席で発表致します。落語は耳学問から人生観にまで影響を及ぼす、含蓄のある文化です。殺伐とした昨今、科学で満たせれぬ心の虚を、落語は満たすと確信致します。
故に、当会に入会されん事、宜しく御願い申し上げ奉ります。

理化学研究部

我らが理化学研究部、通称〝理研〟では文化系クラブでも、部員数・設備などにおいて最大の規模を誇っており、生物以外の理科全般にわたって幅広く活動しています。電子工作・化学実験など…その他には、流星観測会、夏期合宿など楽しい特典がいっぱい！途中入部もできます。もちろん新入生大歓迎です。
入部するなら是非、理研へどーぞ。

新入生諸君！花…とは言えないまでも、青春時代を飾る高校生活の一ページに部活動を加えようと思っている君達に捧げる。もし、入部の際の参考にして頂けたなら光栄です。

EDITORS & 編集後記

大北雄之 文字ばかりにしたのは、私です。文句があったら次のスプリングを作って対抗して下さいね。まってます。

土本光一之助 なかなかおもしろかった。なお音盤についてなにかありましたら、御一報下さい。

中原啓詞 冬過ぎて　春来にけらし　スプリング
筆をもつ手は　つれづれなりけり

藤田智子 うおん、うおん、手が…　文字が…　協力してくれた方々、ありがとうございました。

樫原紀子 by 梨乃 WHAT CAN THIS BE ?

川崎修理太夫近衛龍吉郎雅弘 "DIDN'T CANNOT WILL NOT"
今の気持ちは"GOING"

竹森　毅 訳のわからぬままやってきたスプリング編集委員。みなさん、お疲れさまでした。

谷崎"瞬"ちなみ メ切って相変らず、月日のように過ぎていくんですね。

中川忠彦 地歴部のみなさん　御協力ありがとうございました。

是沢智美 何か知らぬ間に、できあがってしまいました。御協力　ありがとうございました。

広瀬マクラノ葉子 いと　をかし。

Special Thanks to

延山美穂、奥村　知加
文化委員、投稿、校正いただきました先生方、地歴部、そのほか書き尽せぬほど多くの方々へ

顧問　縣　喜樹、福島直子

本誌への多数の御応募、本当にありがとうございました。なお紙面の都合上、一部掲載できなかったことをお詫びします。